

# 宮崎県水産白書

平成30年7月

宮 崎 県

# 目次

## トピックスー平成29年度ー

1	新規漁業就業者の確保対策について	1
2	新たな「宮崎のさかなビジネス」の取組について	3
3	フード・オープンラボの開設	5
4	「宮崎キャビア1983」世界へ!	6
5	資源回復計画の推進	7
6	小型イセエビの再放流効果	8

## 第I章 本県の水産業・漁村の現状

1	生産状況	
(1)	概要	9
(2)	海面漁業・養殖業	10
(3)	内水面漁業・養殖業	13
(4)	水産加工業	14
(5)	全国順位	15
(6)	海面漁業生産量・生産額の推移	18
2	漁業生産構造	
(1)	漁船の隻数	19
(2)	漁業経営体数	20
(3)	漁業就業者数	22
(4)	水産団体	23
3	水産物の流通	
(1)	水産物流通の現状	24
(2)	水産物卸売市場の現状	25
(3)	水産物輸出の現状	26
4	生産基盤	
(1)	適切な資源管理の推進	27
(2)	保護水面	28
(3)	内水面資源の増殖	29
(4)	水産基盤(漁港・漁場)の整備	30
(5)	共同利用施設の整備	32
(6)	漁業の免許・許可	34
(7)	漁船の安全操業の確保	35

## 第II章 水産行政組織の概要及び分掌事務

1	組織概要	36
2	主な分掌事務	37
3	県立高等水産研修所	39
4	水産試験場	41

## 第III章 平成30年度水産当初予算における重点施策

## 第IV章 資料編

1	各種統計	47
2	宮崎県で行われている主な海面漁業	55
3	宮崎県水産物ブランド認証品	59

## 【統計用語の説明】

# トピックス ～平成29年度～

## 1 新規漁業就業者の確保対策について

本県の漁業就業者数は、平成15年の3,749人から平成25年には2,677人と、10年間で1,000人以上も減少し、漁業の担い手対策は、水産物の供給及び漁村地域の機能維持を図る上で、喫緊の課題となっています。

県では、平成28年に策定した宮崎県水産業・漁村振興長期計画（後期計画）において、「未来へつなぐ漁業担い手プロジェクト」を重点プロジェクトに掲げ、同年に水産団体により設立された「公益社団法人宮崎県漁村活性化推進機構（以下、漁村活性化機構）」を核として、新規就業者の確保や高収益型漁業への転換促進などの担い手対策に積極的に取り組んでいます。

また、平成29年度には組織改編により、漁村振興課内に担い手・普及担当を新設し、漁業担い手対策の推進体制の強化を図りました。

本県では近年、毎年50名程度が漁業に就業していますが、その内訳をみると、多くはまき網漁業、かつお・まぐろ漁業、定置網漁業等の法人経営体へ就業する被雇用型の漁業者であり、5トン未満の小型漁船等で操業を行う小型底曳き網漁業や延縄漁業等の独立自営型の沿岸漁業へ就業する者は極僅かです。

この状況が続けば、将来、小型底曳き網漁業等の沿岸漁業が地域から消える可能性があり、漁撈技術の承継や多様な水産物の供給を図る上で、独立自営型の新規就業者の確保育成は喫緊の課題となっています。



写真1 小型底曳き網漁業

一方、独立自営型の新規就業者の地域への受け入れについては、地元の意識醸成はもとより、指導者の有無、漁業許可、漁船取得など検討すべき課題も多く、このことが独立自営型の新規就業者の確保がなかなか進まない要因のひとつにもなっています。

このため、漁村活性化機構では、各地域の担い手受け入れに関する情報を集積するとともに、就業希望者に対して効率的に発信する「新規就業者応援バンク」のサイトを平成30年2月に立ち上げました。

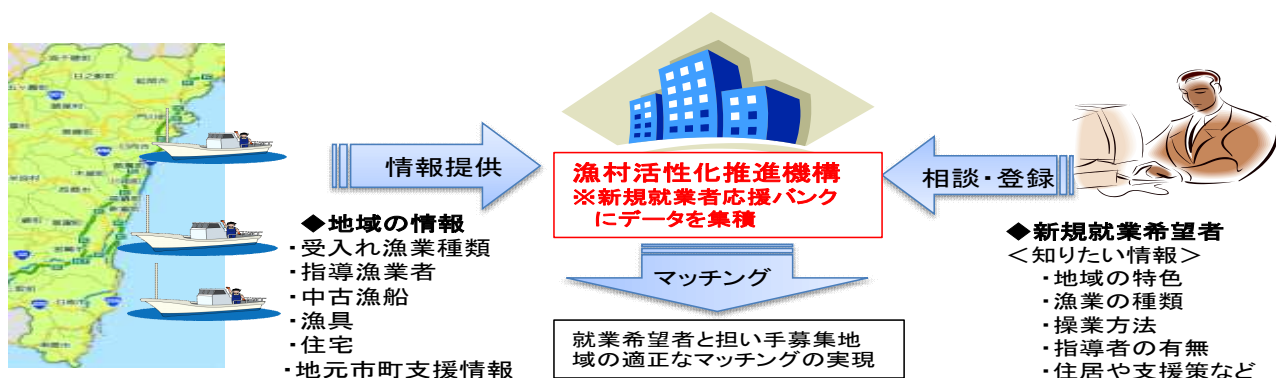


図1 新規就業者応援バンクのイメージ

この「新規就業者応援バンク」のホームページサイトでは、新規就業希望者向けに、地域で行われる漁業種類や漁村地域の生活情報、相談から就業までの一連の流れ、各市町の移住支援制度等を掲載しているほか、具体的な担い手募集情報（求人情報）等様々な情報を得ることができます。漁村活性化機構では、これらの情報をもとに円滑なマッチングを進めています。

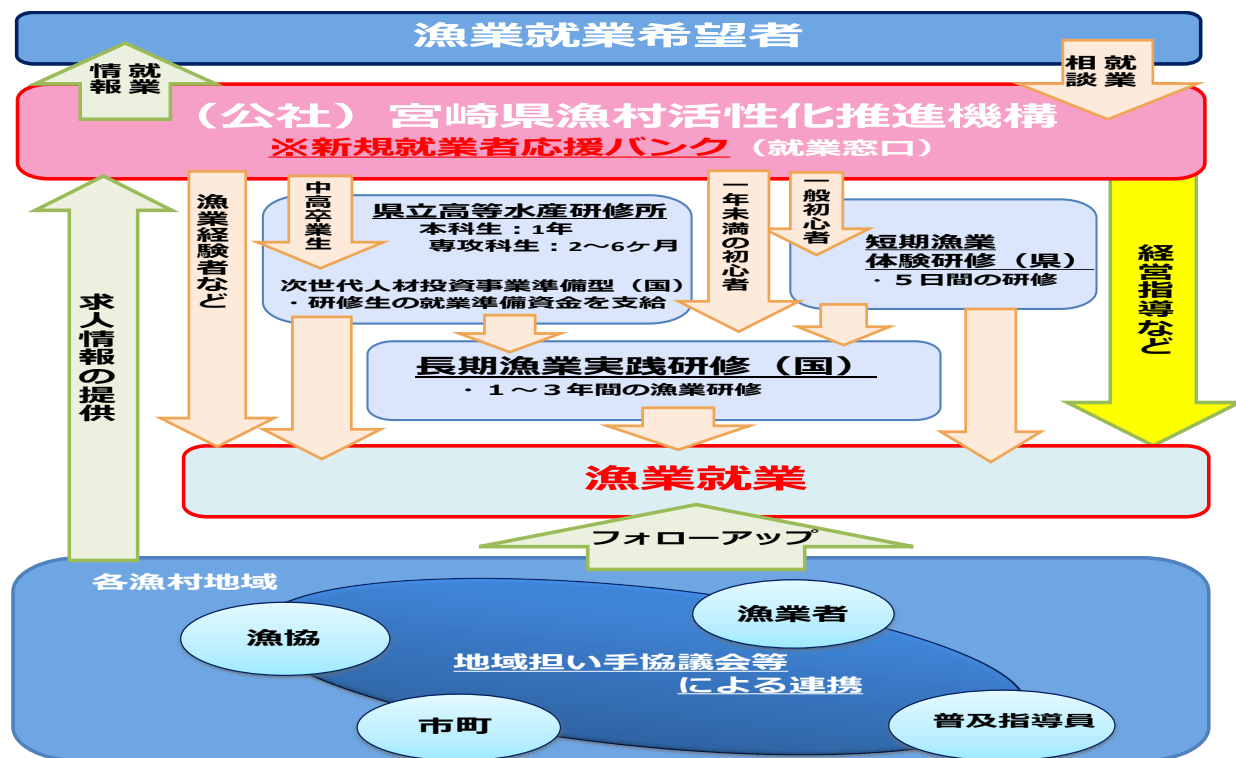


図2 本県漁業就業者確保育成対策の概念図

今後は、この新規就業者応援バンクを担い手確保対策のツールとして効果的に活用し、漁村地域の意識醸成を図りながら、漁業関係者や地元住民が一体となり、地域ぐるみで新規漁業就業者確保育成を推進していく体制づくりを、漁村活性化機構を中心に、関係市町等と連携しながら取り組んでいくこととしています。

## 2 新たな「宮崎のさかなビジネス」の取組について

本県水産業の振興のために、県では「第五次宮崎県水産業・漁村振興長期計画」に基づき、各種施策が行われています。当計画の策定5年目を迎えた平成28年度には、現内容の見直しと取組の加速化のために、2つの重点プロジェクトを新たに展開し、その1つとして「魅力ある水産業の構築プロジェクト」を始動させたところです。

当プロジェクトは、生産と販売の最適化により、本県漁業生産力の最大化を図ることを目的としたものであり、今回、販売の最適化に係る施策について、詳しくご紹介します。この取組ではマーケットニーズ、つまり消費者の皆さんのご要望に沿える商品づくりと販売拡大を通じて、産地を形成する漁業者等の収益向上の実現を目指しているものです。

本県の水産物の流通の特徴としまして、市場で魚が取引された後は、仲買業者等により鮮魚（生の状態の魚）の形態で出荷されるケースが主流となっています。しかし、鮮魚での流通は他地区からの入荷や消費者の需要の影響を受けやすいため、魚の取引価格は常に不安定な状況にさらされている他、飲食店、量販店等の各マーケットが求める定規格・定量・定時での水産物の供給に対応できないといった課題があります。また、販売先においても、他県産との差別化が難しく、本県産の水産物の価値を消費者の方々にお伝えするのが難しいといった点があります。

この課題解決の一助とするために、平成26年度から宮崎県漁業協同組合連合会が中心となり、魚を獲る人〔漁業者〕、魚を集める人〔漁協〕、商品を作る人〔加工業者〕との連携グループとして、『県産水産物販売促進会議』を立ち上げました。ここでは、マーケットに安定した品質と物量の水産物を供給するために、宮崎ならではの「加工品」の製造・販売に着手したところです。また、平成29年度からはマーケットの要求に対して、より迅速なやりとりを重ね、売れる商品づくりの近道となるよう、実需者である食品関連企業と連携した取組も開始し、更なる進展を図っています（図1）。

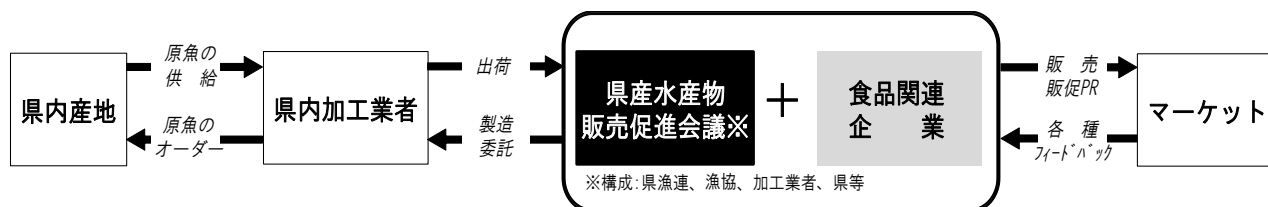


図1 取組スキーム

これまでに、県外の給食事業者に「冷凍骨切りハモ」を、大手量販店に「フカの冷凍切り身」の取引を実現させる等、徐々に成果が出てきたところです（図2）。また、この取組ではマーケットニーズへの対応と併せて、産地での魚の取引価格を安定化させ、漁業者の経営を支える部分にも重きを置いています。上述の魚種は需要の低下する時期に取引価格が下落したり、日常的に漁獲がありながら廉価で取引されているといった課題を抱えており、このような魚種を県産水産物販売促進会議が一定価格で買い支える仕組みの構築を進めています。さらに、最近では未来の食の担い手である子供たちを対象とした地産地消にも力を入れており、開発した商品（シイラカツ、フカカツ等）の中には県内の学校給食で採用されているものもあります。

取扱魚種や開発商品はまだ限定的な状況ではありますが、様々なマーケットニーズに対応でき

る産地体制を構築し、新たな宮崎のさかなビジネスとして、確立できるよう、県産水産物販売促進会議の取組を今後も支援してまいります。



図2 取組成果

### 3 フード・オープンラボの開設

水産試験場では、県内の水産物加工業者などから寄せられていた「試作品を市場で販売してみたい」「購入客の反応を見てから、本格的な製造や機器購入をしたい」という要望に応えるため、水産物加工指導センターを改修し「フード・オープンラボ」を開設しました。

利用希望者は、自社の加工施設がなくても、水試の施設・機材を用いて商品の製造ができ、平成29年4月の開設以降、缶詰・レトルトといった常温流通加工品に取り組みようとする県内の水産物加工業者から利用されています。試作品は道の駅で試験販売され、購入者の声を聞きながら、商品やパッケージの改善、販売先の検討が行われたところでした。

一方、水産試験場には、これら常温流通加工品の製造の他、たくさん獲れるものの魚体が小さい、あるいは馴染みが無く市場流通に乗りにくい等の水産物について、利用拡大や付加価値向上を図りたいとして、平成29年度だけでも80件を越える相談が寄せられ、漁業者や水産加工関係者の関心の高まりがうかがえます。

水産試験場では、これらのニーズや課題に対応する加工品開発を進めています。例えば、小型のキダイやオオニベ、タチウオ等を用いた「骨まで柔らかく、まるごと食べられる魚」は、単価の安い小型魚を調味レトルト加工することで、付加価値を高め、常温での販売を可能にします。このような水産加工品は、特徴ある商品として漁協直売所などから、製造法やレシピ開発の指導依頼があります。

また、限りある水産資源を有効に活用し、関係者の収益につなげるためには、その水産物の特長を把握してセールスポイントにすることが効果的です。このため、利用拡大が図られているハモ、オオニベ、シュモクザメなどについて、脂肪酸やアミノ酸、コラーゲンといった機能性素材も含めた成分分析と利用研究を進めています。

今後も本県水産物の販売力強化のため、フード・オープンラボの活用や付加価値向上につながる試験研究の推進、相談指導の充実を図ってまいります。



フード・オープンラボで製造した商品の  
テストマーケティング風景

骨まで柔らかく、まるごと食べられる魚  
試作品（タチウオ、キダイ、オオニベ）

## 4 「宮崎キャビア1983」世界へ！

平成29年3月8日に国産品で初となる輸出を行いました。初めての輸出先は香港。3月17日にはフォーシーズンズ香港でレセプションが行われ、招待客やメディアに振る舞われました。

日本は、キャビアの輸出が想定されなかったため、輸出する際に必要となる国際ルールである「統一ラベリングシステム」制度の整備がされていませんでした。そのため、平成26年度みやぎの提案要望にて、水産庁及び経済産業省に要望した結果、平成27年9月18日に制度が完備されました。

制度の整備により、宮崎キャビア事業協同組合（現ジャパンキャビア(株)）が、チョウザメ養殖場及びキャビア加工場の登録手続きを行い、国内第1号として登録されました。

今後も、中国や台湾などの東アジアをはじめ、キャビアの本場である欧米で日本の和キャビアが認められることを目標に、輸出を進めていきます。



### 【キャビア統一ラベリングシステムの概要】

- ① 概要：キャビアのラベリングに関するワシントン条約による要求事項に基づき、キャビアの一次容器はすべてラベルを添付しなければならない。
- ② 仕様：再使用不可ラベル（標準種/出所/原産国/採取年/加工工場番号/ロット識別番号）



## 5 資源回復計画の推進

宮崎県では、積極的な資源の回復を図ることが必要な沿岸資源について、県が主体となって「資源回復計画」を策定し、漁業者等、関係者一体となって回復のための取組を行っています。現在、「宮崎海域カサゴ資源回復計画（H17～）」と「宮崎海域アマダイ類の資源回復計画（H28～）」の2つの計画を実行中です。

### （1）宮崎海域カサゴ資源回復計画

カサゴは沿岸域の瀬礁に広く生息し、単価が比較的高く、小型漁船で容易に漁獲できるため、沿岸漁家の安定経営に寄与できる資源です。

資源回復の取組（表1）を行った結果、カサゴの資源量は平成17年の資源回復計画開始以降は維持され、平成28年以降は増加に転じ、漁獲量も今後増加することが期待されます（図1）。

表1 カサゴ資源回復計画の概要

計画の内容（第3期計画）	対象
禁漁期の設定（10/1～4/14）	延縄
地区別の漁獲量の上限を設定	延縄
全長18cm以下の再放流	全漁業
種苗放流（年間30万尾程度）	—

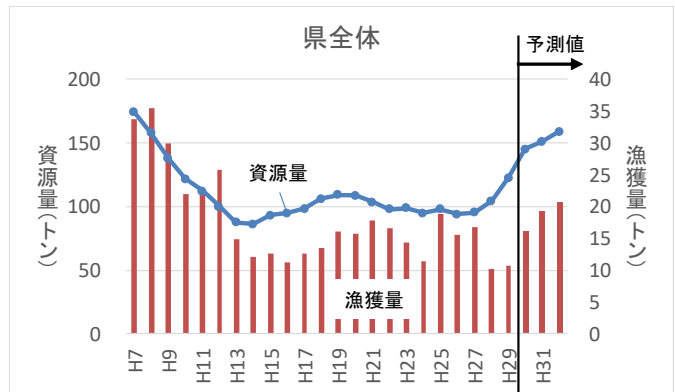


図1 カサゴの資源量と漁獲量

### （2）宮崎海域アマダイ類の資源回復計画

アマダイ類（アカアマダイ、シロアマダイ、キアマダイ）も、カサゴ同様に本県の沿岸漁業にとって重要な魚種ですが、県内の漁獲量は平成元年の約250トンを一気に減少を続け、平成21年以降は年間10トン程度まで落ち込みました。

そこで、県が平成28年に資源回復計画を策定し、管理を始めました（表2）。この取組により、今後、資源量や漁獲量の増加が期待されます（図2）。

表2 アマダイ類の資源回復計画の概要

計画の内容（第3期計画）	対象
地区別の漁獲量の上限を設定	延縄
休漁期間の設定（1～3ヶ月）	延縄
漁具の制限（針の制限等）	延縄
種苗放流（試験放流）	—

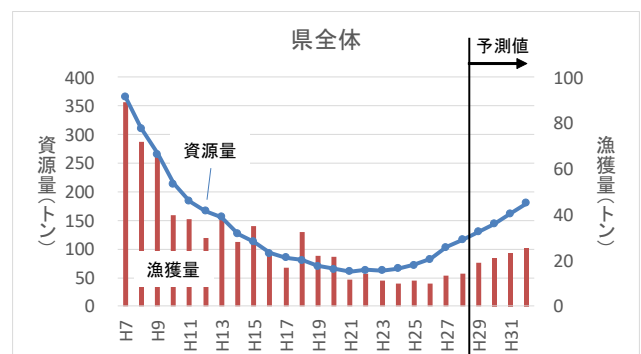


図2 アマダイ類の資源量と漁獲量



図3 アカアマダイ人工種苗の試験放流



図4 再捕された放流魚（腹鰭切除標識）

## 6 小型イセエビの再放流効果

イセエビは単価が高いことから、本県の沿岸漁業の重要な漁獲物となっています。平成29年度の県の資源評価結果では、日向灘の資源は「低位・横ばい」状況にあり、沿岸に来遊する浮遊幼生を大幅に増やすことは難しいことから、限られた来遊資源を効率的に利用するため、小型個体は再放流して漁獲サイズを拡大することが提言されています。

小型イセエビは、商品価値が低いこと、県規則により体長制限があることから、現在も再放流が行われてはいますが、放流したエビがどこに行くのか、またどの程度大きくなるのか、疑問の声もあります。そこで、漁業者とともに標識放流試験を行いました。

写真のような標識を付けて、平成26年9月に都農町地先で94尾、同10月に日南市宮浦地先で153尾、それぞれ禁漁区に放流しました。結果は、下の図のように、日南放流分が、翌々年10月（741日目）までに41尾漁獲され、90%は放流場所の周りで漁獲されました。都農放流分は放流翌年9月（381日目）までに30尾漁獲され、ほとんどが放流場所の南側の漁場でした。ただし、都農放流分は、放流後100日以内で多くが漁獲されてしまいました。



番号標識を付けたイセエビ

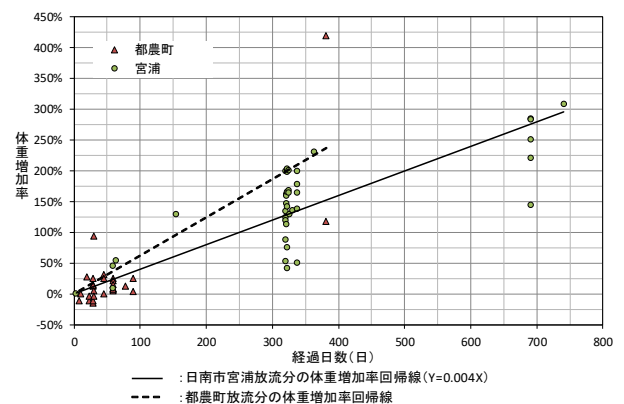
再捕されるまでの日数と、増えていた体重の割合（体重増加率）をみると、都農放流分は早く獲られてしまっってはっきりしませんが、日南放流分は約1年後の平均体重増加率が139.7%（つまり元の約100gサイズが2.4倍）、約2年後の平均体重増加率が248.0%（元の3.5倍）でした。

このことから、放流したエビがすぐに動かない（餌や隠れ場が豊富な）場所に、小型イセエビを放流すれば、翌年9月の解禁時には、充分商品サイズに育つとわかりました。ちなみに、日南放流分で計算してみると、300kgの放流で約百万円の効果があると試算されました（実際は禁漁区内にまだエビがいるはずなのでそれ以上）。このような資源管理の取組を推進し、漁業収入を確保しながら、限りある資源を有効に利用していく必要があります。



放流場所と標識エビが再捕された場所  
左：日南市宮浦地先 右：都農町地先

- ☆ :放流場所
- :主な再捕場所



再捕までの経過日数と体重増加率

# 第 I 章 本県の水産業・漁村の現状

## 1 生産状況

### (1) 概要

本県の海岸線は総延長400kmで、沖合海域では北上する黒潮の影響が強く、沿岸部では、流入する河川水や豊後水道から南下する沿岸水と黒潮によって複雑な海況となっており、沿岸はイワシ、アジ、サバ等の好漁場となり、さらにその沖合にはカツオ、マグロの漁場が形成されています。



近海かつお一本釣漁船（南郷町目井津港）

海面漁業は、北部ではまき網、底びき網などの網漁業とブリ類、マダイを主体とする養殖業、中部では船びき網、一本釣、曳縄、はえ縄、底びき網、さらに南部ではかつお一本釣、まぐろはえ縄等の沖合漁業が盛んに行われています。

特に、「近海かつお一本釣」の漁獲量は、平成6年から23年連続で日本一の地位を保っています。



マグロ延縄漁

海面養殖業は冬季の高水温と天然種苗の確保が容易であるという条件を背景にして内湾のある県北・県南部のはまち養殖を中心に順調に伸びてきました。

近年は、ニーズの多様化等により、沖合養殖によるブリ類の品質の向上が図られる一方で新魚種への転換が進み、ブリ、カンパチをはじめとして、マダイ、シマアジ、マサバ等の養殖が行われています。

水産加工業は、県内に広く立地し、イワシ、アジ等の塩干、煮干し品や節製品を主体に生産しています。

内水面漁業については、大淀川、一ツ瀬川、五ヶ瀬川、小丸川、耳川などにおいて、アユ、コイ、ウナギ等を対象とする河川漁業が行われています。

また、天然種苗や豊富な地下水、温暖な気候を活かし、ウナギ、アユ等の内水面養殖が行われています。



養殖ブリ水揚げ

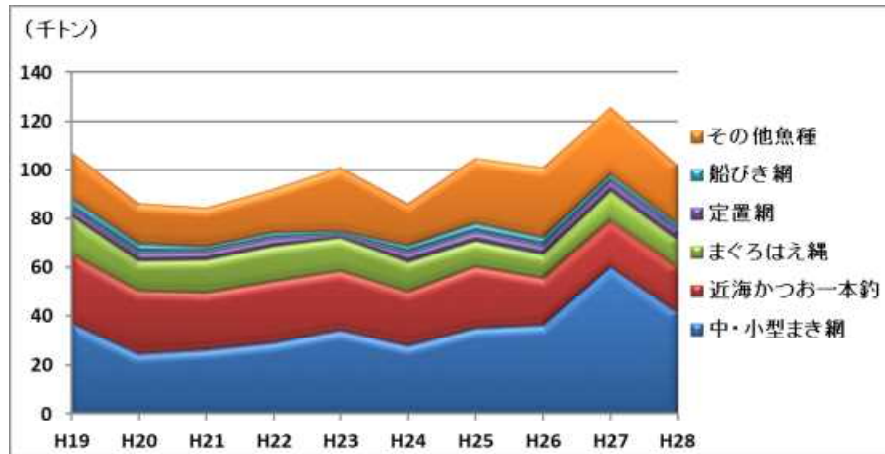
## (2) 海面漁業・養殖業

### 1) 漁業種類別漁獲量・生産額

海面漁業における平成28年の漁獲量は101,748トンで、前年と比べ24,130トン(19.2%)減少しました。

また、生産額は256億1,300万円で、前年と比べ27億8,400万円(9.8%)減少しました。

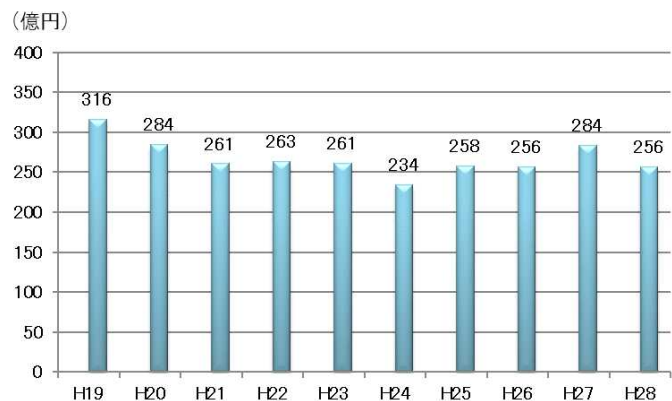
漁業種類別漁獲量の推移



平成28年漁業種類別漁獲量の割合



海面漁業生産額の推移



漁業種類別漁獲量・生産額

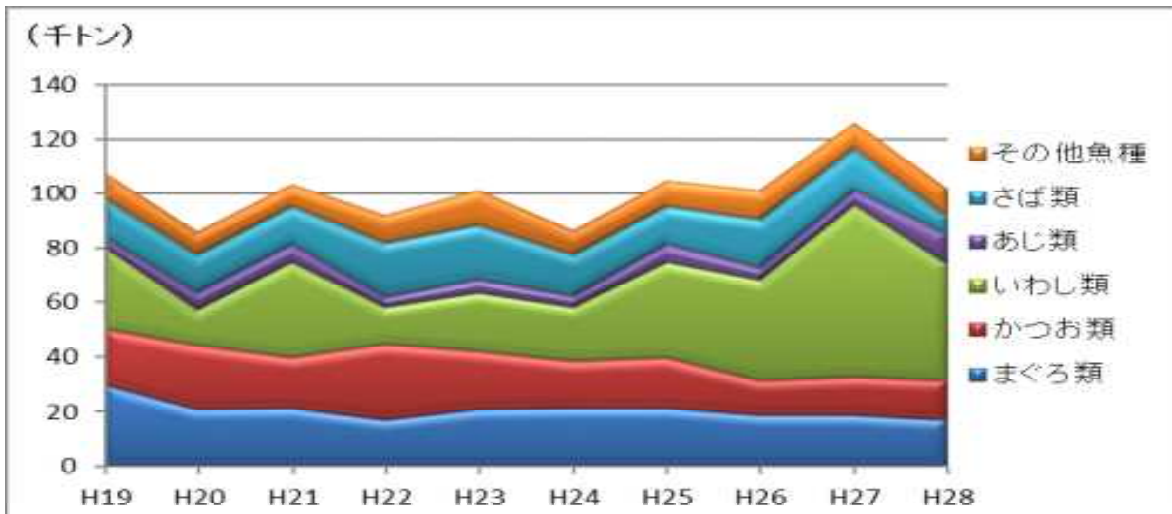
単位 (漁獲量 : トン、生産額 : 百万円)

区分		H24	H25	H26	H27	H28	増減率 (%)	
							H28/H24	H28/H27
合計	漁獲量	86,534	104,884	101,229	125,878	101,748	17.6	▲ 19.2
	生産額	23,427	25,791	25,639	28,397	25,613	9.3	▲ 9.8
中・小型まき網	漁獲量	27,935	35,191	36,218	60,021	41,387	48.2	▲ 31.0
	生産額	-	-	-	-	-	-	-
近海かつお一本釣	漁獲量	22,133	25,157	19,547	19,190	18,363	▲ 17.0	▲ 4.3
	生産額	-	-	-	-	-	-	-
まぐろはえ縄	漁獲量	12,114	10,473	9,767	11,948	11,629	▲ 4.0	▲ 2.7
	生産額	-	-	-	-	-	-	-
定置網	漁獲量	4,093	3,852	3,713	4,071	4,057	▲ 0.9	▲ 0.3
	生産額	-	-	-	-	-	-	-
船びき網	漁獲量	2,534	3,481	2,787	2,504	2,221	▲ 12.4	▲ 11.3
	生産額	-	-	-	-	-	-	-
その他漁業	漁獲量	17,725	26,730	29,197	28,144	24,091	35.9	▲ 14.4
	生産額	-	-	-	-	-	-	-

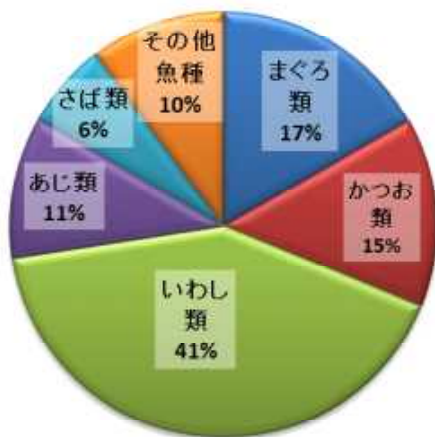
資料 : 平成28年漁業・養殖業生産統計

## 2) 魚種別漁獲量・生産額

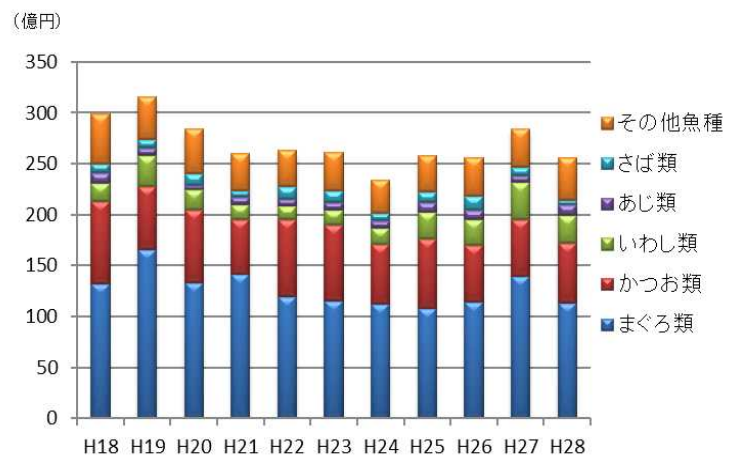
魚種別漁獲量の推移



平成28年魚種別漁獲量の割合



魚種別生産額の推移



魚種別漁獲量・生産額

単位 (漁獲量: トン、生産額: 百万円)

区分		H24	H25	H26	H27	H28	増減比 (%)	
							H28/H23	H28/H27
合計	漁獲量	86,534	104,884	101,229	125,878	101,748	0.6	▲ 19.2
	生産額	23,427	25,791	25,639	28,397	25,613	▲ 2.0	▲ 9.8
まぐろ類	漁獲量	21,436	21,295	18,728	19,001	17,034	▲ 18.2	▲ 10.4
	生産額	11,250	10,748	11,365	13,960	11,356	▲ 1.0	▲ 18.7
かつお類	漁獲量	17,123	18,614	12,851	14,080	14,726	▲ 30.5	4.6
	生産額	5,779	6,813	5,593	5,584	5,810	▲ 22.3	4.0
いわし類	漁獲量	19,729	34,813	36,474	62,823	42,072	95.1	▲ 33.0
	生産額	1,660	2,658	2,533	3,624	2,719	85.5	▲ 25.0
あじ類	漁獲量	4,386	6,979	5,145	5,365	11,007	119.5	105.2
	生産額	679	992	902	668	1,079	43.5	61.5
さば類	漁獲量	14,886	13,588	17,494	15,098	6,538	▲ 67.4	▲ 56.7
	生産額	718	993	1,398	846	451	▲ 60.5	▲ 46.7
その他魚種	漁獲量	8,974	9,595	10,537	9,511	10,371	▲ 16.9	9.0
	生産額	3,341	3,587	3,848	3,715	4,198	9.5	13.0

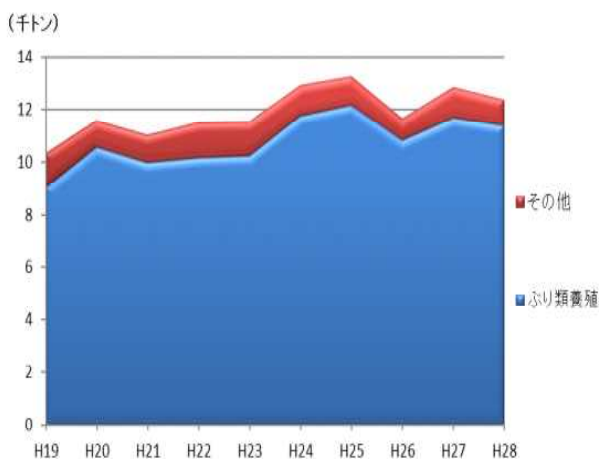
資料: 平成28年漁業・養殖業生産統計

### 3) 海面養殖業の収穫量・生産額

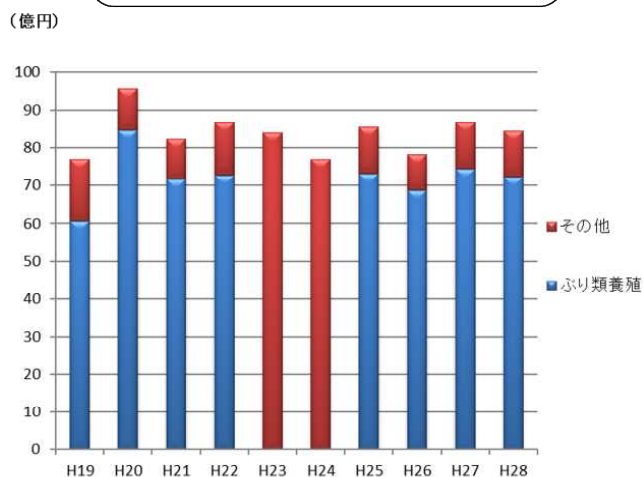
海面養殖業は冬季の高水温と天然種苗の確保が容易であるという条件を背景にして内湾の多い県北・県南部のブリ類養殖業を中心に順調に発展してきました。

近年は、ニーズの多様化等により、ブリ類養殖から新魚種への転換が進み、カンパチをはじめとして、マダイ、シマアジ、マサバ等の養殖が行われる一方で、ブリ類養殖では、沖合養殖による品質の向上が図られています。

海面養殖業収穫量の推移



海面養殖業生産額の推移



※平成23・24年度は「ブリ類」の生産額が未公表

海面養殖業収穫量・生産額

単位（収穫量：トン、生産額：百万円）

区分		H24	H25	H26	H27	H28	増減比(%)	
							H28/H24	H28/H27
合計	収穫量	12,938	13,257	11,663	12,861	12,376	▲ 4.3	▲ 3.8
	生産額	7,698	8,533	7,815	8,659	8,437	9.6	▲ 2.6
ブリ類養殖	収穫量	11,757	12,155	10,816	11,656	11,370	▲ 3.3	▲ 2.5
	生産額	X	7,315	6,870	7,430	7,230	-	▲ 2.7
まだい養殖	収穫量	684	609	506	791	590	▲ 13.7	▲ 25.4
	生産額	543	516	414	604	482	▲ 11.2	▲ 20.2
その他	収穫量	497	493	341	414	416	▲ 16.3	0.5
	生産額	X	702	531	625	725	-	16.0

資料：平成28年漁業・養殖業生産統計



ブリ



タイ

### (3) 内水面漁業・養殖業

#### 1) 内水面漁業・養殖業の生産量

内水面漁業における平成28年の主要河川（大淀川、一ツ瀬川）の漁獲量は37トンで、前年に比べ5トン（対前年比11.9%）減少しました。

本県は、ウナギとアユの天然種苗に恵まれており、豊富な地下水と湧水及び温暖な気候を生かした養殖業が各地で営まれています。内水面養殖業における平成28年の収穫量はうなぎを主体として3,945トンで、前年に比べ102トン（対前年比2.5%）減少しました。

平成28年内水面漁業漁獲量



平成28年内水面養殖業収穫量



内水面漁業漁獲量の推移

単位：トン

区分	H24	H25	H26	H27	H28	対各年比(%)	
						H28/H24	H28/H27
合計	63	64	54	42	37	▲ 41.3	▲ 11.9
あゆ	18	21	16	11	7	▲ 61.1	▲ 36.4
こい	8	7	5	4	3	▲ 62.5	▲ 25.0
うなぎ	5	3	3	3	3	▲ 40.0	0.0
その他	32	33	30	24	24	▲ 25.0	0.0

※大淀川、一ツ瀬川の合計

資料：平成28年漁業・養殖業生産統計

内水面養殖業収穫量の推移

単位：トン

区分	H24	H25	H26	H27	H28	対各年比(%)	
						H28/H24	H28/H27
合計	4,014	3,687	3,902	4,047	3,945	▲ 1.7	▲ 2.5
あゆ	431	391	289	256	248	▲ 42.5	▲ 3.1
こい	371	367	364	362	362	▲ 2.4	0.0
うなぎ	3,111	2,840	3,167	3,348	3,255	4.6	▲ 2.8
その他	101	89	82	81	80	▲ 20.8	▲ 1.2

資料：平成28年漁業・養殖業生産統計

## (4) 水産加工業

### 1) 水産加工品生産量

水産加工業は、宮崎市、都城市、延岡市、日南市、串間市、門川町など県内に広く立地し、イワシ、アジ、サバ、チリメン等の塩干品、煮干し品、ねり製品等を主体に生産しています。平成28年の本県における水産加工品（陸上加工）の生産量は、前年と比べて18,876トン増の36,054トン（対前年比34.4%増）となっています。

#### 水産加工品生産量の推移

単位：トン

区分		H24	H25	H26	H27	H28	対各年比(%)	
							H28/H24	H28/H27
合計	生産量	31,781	36,418	33,629	54,930	36,054	13.4	▲ 34.4
ねり製品	生産量	2,183	2,422	2,521	2,760	2,822	29.3	2.2
塩干品	生産量	1,249	1,219	1,180	1,240	1,153	▲ 7.7	▲ 7.0
煮干し	生産量	1,310	1,779	1,398	1,307	1,322	0.9	1.1
生鮮冷凍水産物	生産量	21,040	25,395	28,530	42,703	30,757	46.2	▲ 28.0
その他	生産量	5,999	5,603	x	6,920	x	-	-

資料：農林水産省 水産加工統計調査

### 2) 水産物製造品出荷額

平成27年の水産物製造品出荷額は、前年と比べて8億6,100万円（9.5%）増の99億5,000万円となっています。

#### 水産物製造品出荷額の推移

単位：百万円

区分		H23	H24	H25	H26	H27	増減比(%)	
							H27/H22	H27/H26
合計	出荷額	17,694	x	x	9,089	9,950	-	9.5
ねり製品製造業	出荷額	2,217	2,486	2,654	2,575	2,116	▲ 15.8	▲ 17.8
塩干・塩蔵品製造業	出荷額	1,689	1,431	1,650	1,516	816	▲ 49.1	▲ 46.2
冷凍水産物製造業	出荷額	1,664	x	679	841	4,183	-	397.4
冷凍水産食品製造業	出荷額	9,763	x	x	460	700	2.6	52.2
その他	出荷額	2,361	3,114	3,577	3,697	2,135	▲ 30.3	▲ 42.3

資料：宮崎県 統計調査課「宮崎県の工業」



(5) 全国順位

※ 資料：平成28年漁業・養殖業生産統計

平成28年海面漁業養殖業都道府県別生産量及び生産額

単位（生産量：トン、生産額：百万円）

都道府県	生産量						生産額						
	計	順位	漁業	順位	養殖業	順位	計	順位	漁業	順位	養殖業	順位	
全 国	1	4,296,125		3,263,618		1,032,507		1,471,638		961,915		509,724	
北 海 道	2	861,203	1	749,912	1	111,291	2	300,014	1	249,394	1	50,620	3
青 森	3	227,916	5	107,003	9	120,913	1	68,184	6	42,004	5	26,180	7
岩 手	4	119,755	12	85,169	11	34,586	11	36,051	13	27,203	8	8,848	16
宮 城	5	247,737	3	163,191	6	84,546	4	75,985	5	52,651	4	23,335	9
秋 田	6	6,904	38	6,758	37	146	34	3,116	38	3,035	35	81	34
山 形	7	5,167	39	5,167	38	-	-	2,880	39	x	-	x	-
福 島	8	47,944	25	47,944	20	-	-	7,938	35	7,938	28	-	-
茨 城	9	244,372	4	244,372	3	x	-	18,672	26	x	-	x	-
千 葉	10	123,102	11	115,158	7	7,944	22	27,597	17	24,916	12	2,680	23
東 京	11	48,528	24	48,528	19	x	-	19,782	23	x	-	x	-
神 奈 川	12	35,510	28	34,537	23	973	27	18,149	27	17,689	17	460	28
新 潟	13	30,836	30	29,904	24	932	28	12,269	31	11,970	24	299	32
富 山	14	39,683	27	39,669	21	14	35	14,775	30	14,748	18	26	35
石 川	15	60,110	22	58,689	17	1,421	26	20,861	22	20,446	16	416	30
福 井	16	15,367	36	15,140	33	227	33	9,062	33	8,629	26	433	29
静 岡	17	185,665	7	183,378	4	2,287	25	56,756	7	54,675	3	2,081	24
愛 知	18	91,041	16	77,711	13	13,330	19	18,894	25	14,406	19	4,488	22
三 重	19	196,746	6	170,426	5	26,320	12	50,698	9	30,593	6	20,104	11
京 都	20	10,772	37	10,075	36	697	30	4,273	36	3,387	34	886	26
大 阪	21	18,777	35	18,254	28	523	31	4,153	37	4,001	33	152	33
兵 庫	22	125,518	10	55,861	18	69,657	6	51,120	8	30,179	7	20,941	10
和 歌 山	23	24,692	33	22,170	27	2,522	23	15,452	29	9,416	25	6,036	19
鳥 取	24	73,637	20	72,891	15	746	29	21,486	20	20,881	15	605	27
島 根	25	109,834	15	109,353	8	481	32	21,372	21	20,998	14	374	31
岡 山	26	26,552	32	4,055	39	22,497	15	8,413	34	2,675	36	5,738	20
広 島	27	116,419	13	16,724	31	99,695	3	26,404	18	7,449	29	18,955	13
山 口	28	29,013	31	26,654	25	2,359	24	16,246	28	14,263	20	1,983	25
徳 島	29	21,957	34	10,345	34	11,612	21	11,215	32	5,732	31	5,483	21
香 川	30	43,081	26	18,221	29	24,860	13	21,845	19	8,463	27	13,382	15
愛 媛	31	151,681	8	82,345	12	69,336	7	91,287	3	25,819	10	65,468	1
高 知	32	83,036	18	66,136	16	16,900	17	46,135	10	26,178	9	19,957	12
福 岡	33	72,630	21	26,064	26	46,566	10	30,190	16	12,101	23	18,089	14
佐 賀	34	86,559	17	10,176	35	76,383	5	33,623	15	5,393	32	28,230	6
長 崎	35	305,959	2	286,490	2	19,469	16	97,422	2	64,441	2	32,981	5
熊 本	36	76,944	19	18,219	30	58,725	8	42,108	11	6,168	30	35,940	4
大 分	37	58,807	23	35,278	22	23,529	14	37,380	12	13,518	21	23,862	8
宮 崎	38	114,124	14	101,748	10	12,376	20	34,049	14	25,613	11	8,437	17
鹿 児 島	39	125,834	9	73,742	14	52,092	9	76,249	4	21,459	13	54,790	2
冲 縄	40	32,705	29	16,158	32	16,547	18	19,532	24	12,163	22	7,369	18

平成28年漁業種別漁獲量

(※全国10位以内の漁業・魚種)

単位：トン

順位	中小型まき網	近海まぐる延縄	沿岸まぐる延縄	遠洋かつお一本釣り	近海かつお一本釣り	沿岸かつお一本釣り	ひき縄釣
1	長崎 106,278	宮城 10,191	宮崎 1,849	静岡 15,818	宮崎 18,363	高知 6,814	高知 3,745
2	島根 77,612	高知 9,942	沖縄 1,428	三重 11,629	高知 5,492	三重 1,227	沖縄 2,141
3	三重 73,250	宮崎 8,856	宮城 485	宮城 5,906	三重 3,871	愛媛 820	長崎 1,327
4	宮崎 41,387	沖縄 6,501	岩手 404	高知 5,566		沖縄 642	宮崎 921
5	鹿児島 31,193	大分 2,729	千葉 221	宮崎 3,296		鹿児島 486	福岡 623
6	愛媛 23,757	三重 1,105	青森 180			宮崎 482	兵庫 620
7	千葉 15,641	和歌山 304	高知 158			神奈川 146	三重 581
8	大分 13,535		北海道 79				千葉 501
9	大阪 12,644		東京 53				和歌山 489
10	石川 10,405						鹿児島 475
全国計	461,027	42,100	5,093	51,734	29,464	11,080	13,401
全国比	9.0%	21.0%	36.3%	6.4%	62.3%	4.4%	6.9%

\* 近海かつお一本釣り23年連続日本一（平成6年～）

平成28年魚種別漁獲量（海面漁業）

単位：トン

順位	海面漁業							
	まぐる類	びんなが	きはだ	かじき類	まかじき	めかじき	くろかじき類	かつお
1	静岡 26,844	宮崎 9,232	静岡 17,374	宮城 3,435	宮崎 485	宮城 2,745	高知 527	静岡 71,655
2	宮城 19,258	高知 7,331	東京 8,522	高知 1,629	高知 267	三重 801	沖縄 480	東京 29,940
3	宮崎 17,034	三重 5,077	宮城 7,293	宮崎 1,429	宮城 212	高知 788	鹿児島 458	三重 26,734
4	高知 14,776	静岡 4,600	三重 5,122	鹿児島 1,275	千葉 189	宮崎 677	宮城 380	宮城 16,275
5	三重 13,206	宮城 3,831	宮崎 5,061	三重 1,231	長崎 139	神奈川 520	三重 281	宮崎 14,189
6	鹿児島 11,595	沖縄 2,819	沖縄 4,037	沖縄 854	鹿児島 88	鹿児島 483	宮崎 225	高知 14,104
7	東京 11,522	鹿児島 2,317	鹿児島 3,657	神奈川 799	三重 85	岩手 404	神奈川 185	神奈川 9,812
8	沖縄 9,965	大分 1,916	長崎 3,207	岩手 662	北海道 80	静岡 396	岩手 156	長崎 9,726
9	神奈川 6,770	青森 1,195	神奈川 2,915	静岡 583	沖縄 68	福島 334	福島 136	新潟 9,583
10	長崎 5,634	岩手 1,119	高知 2,826	福島 578	神奈川 61	東京 333	大分 122	鳥取 9,290
全国計	168,475	42,809	70,872	14,479	1,963	8,309	3,372	227,946
全国比	10.1%	21.6%	7.1%	9.9%	24.7%	8.1%	6.7%	6.2%

単位：トン

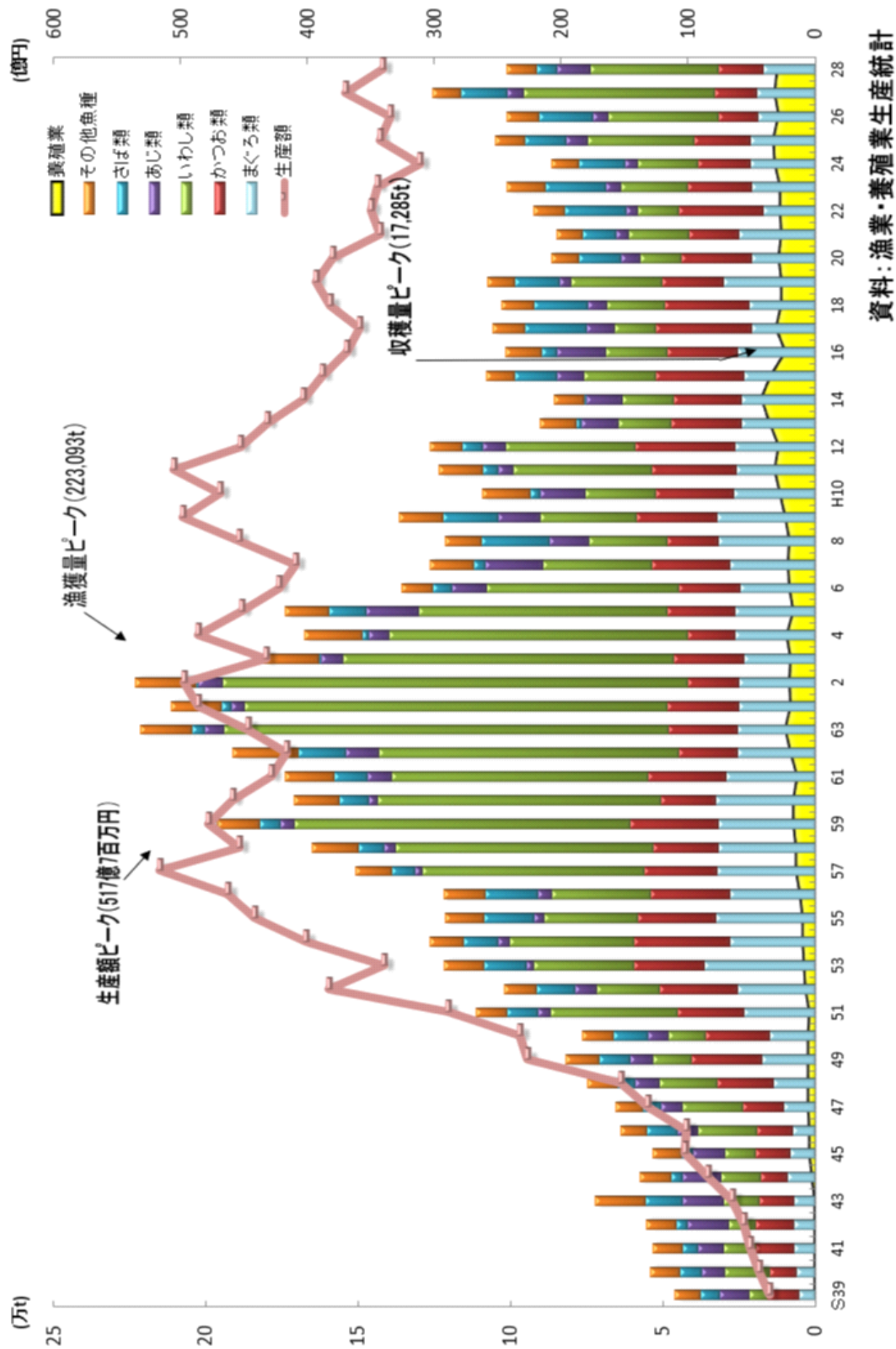
順位	海面漁業							
	いわし類	うるめいわし	しらす	あじ類	むろあじ類	まいわし	いせえび	さめ類
1	茨城 92,532	長崎 35,830	兵庫 12,516	長崎 54,996	宮崎 8,459	茨城 90,608	三重 247	宮城 16,686
2	長崎 86,117	宮崎 18,757	静岡 8,905	島根 24,244	鹿児島 4,565	三重 58,560	千葉 180	神奈川 1,924
3	三重 85,765	鹿児島 8,511	愛知 8,445	宮崎 11,007	和歌山 3,239	千葉 21,052	和歌山 147	北海道 1,899
4	愛知 49,848	三重 7,873	大分 4,093	鹿児島 7,092	長崎 2,209	長崎 19,780	静岡 128	青森 1,839
5	宮崎 42,072	愛媛 6,871	大阪 3,859	愛媛 6,071	大分 1,632	宮城 18,893	徳島 70	岩手 1,698
6	愛媛 35,250	高知 5,699	愛媛 3,664	鳥取 5,413	高知 1,554	愛知 18,764	長崎 60	富山 1,525
7	千葉 32,637	熊本 3,284	鹿児島 3,438	和歌山 4,373	愛媛 1,509	島根 18,378	宮崎 57	鹿児島 1,465
8	静岡 27,541	島根 2,510	和歌山 3,162	大分 3,848	兵庫 1,496	宮崎 16,462	鹿児島 50	高知 1,199
9	島根 24,564	静岡 2,386	徳島 3,037	千葉 3,657	静岡 833	静岡 15,448	東京 39	三重 597
10	鹿児島 23,471	大分 1,530	宮崎 2,217	石川 3,479	三重 393	福島 12,883	高知 35	宮崎 521
全国計	710,367	97,871	63,180	152,524	27,105	378,142	1,119	30,950
全国比	5.9%	19.2%	3.5%	7.2%	31.2%	4.4%	5.1%	1.7%

平成28年魚種別生産量（海面・内水面養殖業）

単位：トン

順位	海面養殖業						内水面養殖業		
	ぶり	かんぱち	まあじ	しまあじ	まだい	ひらめ	あゆ	こい	うなぎ
1	鹿児島 28,416	鹿児島 16,907	静岡 432	愛媛 1,838	愛媛 38,568	鹿児島 659	愛知 1,182	茨城 1,057	鹿児島 7,972
2	大分 17,223	愛媛 5,315	愛媛 112	高知 547	熊本 10,254	大分 578	和歌山 1,039	福島 912	愛知 4,742
3	愛媛 16,375	大分 2,495	宮崎 89	熊本 530	高知 4,985	愛媛 337	岐阜 882	宮崎 362	宮崎 3,255
4	宮崎 9,065	香川 2,434	熊本 53	大分 522	三重 4,955	長崎 158	滋賀 504	福岡 260	静岡 1,654
5	高知 6,473	宮崎 2,305	長崎 19	三重 209	長崎 2,554	愛知 124	栃木 330	群馬 165	三重 306
6	長崎 6,048	熊本 892	佐賀 18	宮崎 103	和歌山 1,527	宮崎 63	徳島 274	長野 157	徳島 301
7	熊本 5,952	徳島 405		長崎 86	鹿児島 958	山口 35	宮崎 248	山形 109	高知 251
8	香川 5,532	長崎 228		静岡 47	静岡 679	静岡 34	静岡 165	秋田 29	熊本 157
9	徳島 3,599				宮崎 590		熊本 158	熊本 19	大分 75
10	三重 2,626				香川 515		大分 125	新潟 9	愛媛 44
全国計	103,124	34,089	740	3,941	66,965	2,309	5,183	3,131	18,907
全国比	8.8%	6.8%	12.0%	2.6%	0.9%	2.7%	4.8%	11.6%	17.2%

## (6) 海面漁業生産量・生産額の推移



## 2 漁業生産構造

### (1) 漁船の隻数

平成29年末現在の県内の海面における漁船登録隻数は2,404隻となっています。このうち動力漁船（船外機船を含む）は、2,395隻で全体の99.6%を占めており、1隻当たりの平均トン数は6.3トンとなっています。動力漁船を船質別にみると、鋼船0.3%（8隻）、木船1.0%（24隻）、FRP船98.7%（2,363隻）となっています。

また、船齢別構成では、船齢15年以上の占める割合が大きく増加し、動力漁船の高齢化が進んでいます。

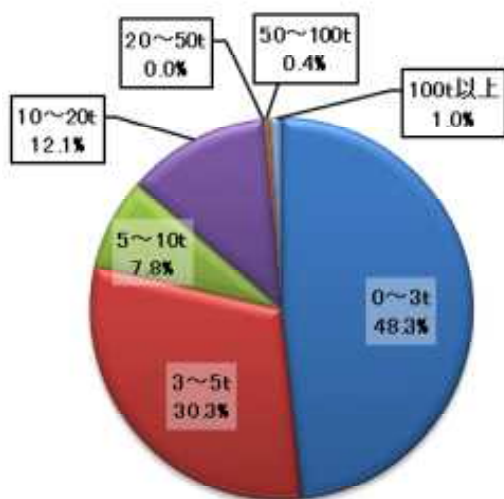
#### 漁船登録隻数の推移

単位：隻

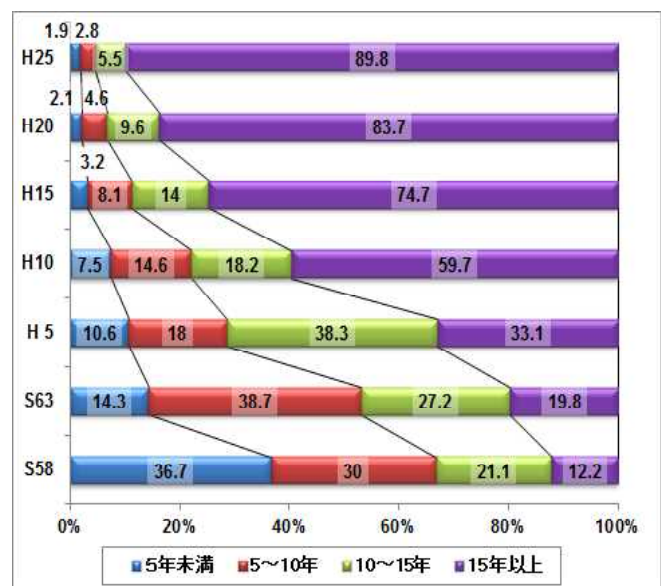
年	総隻数	無動力 漁船 隻数	総動力 漁船 隻数							
				0～3 t	3～5 t	5～10 t	10～20 t	20～50 t	50～100 t	100 t 以上
19	2,971	6	2,965	1,398	1,018	205	289	2	13	40
20	2,889	6	2,883	1,363	982	194	293	2	11	38
21	2,835	6	2,829	1,346	941	202	292	2	10	36
22	2,789	6	2,783	1,321	922	199	293	2	10	36
23	2,775	6	2,769	1,320	902	201	300	2	8	36
24	2,723	7	2,716	1,305	871	200	296	2	10	32
25	2,659	7	2,652	1,277	841	197	294	2	11	30
26	2,604	7	2,597	1,252	817	197	291	2	9	29
27	2,534	7	2,527	1,215	790	193	293	2	8	26
28	2,488	7	2,481	1,199	765	196	292	1	10	25
29	2,404	9	2,395	1,156	726	188	290	1	10	24

資料：水産政策課集計

平成29年末  
登録動力漁船のトン数別構成比



動力漁船の船齢別構成の推移



## (2) 漁業経営体数

### 1) 主とする漁業種類別経営体数

本県における漁業経営体数は平成20年には1,402経営体でしたが、平成25年は、1,153経営体（249経営体、17.8%減）となっています。

主とする漁業種類別経営体数は、経営体が営んだ漁業種類のうち水揚金額が最も多かった漁業種類によって分類しており、その年の気象や海況の条件、漁獲量の減少、魚価の動向によって変動する性格を有しています。

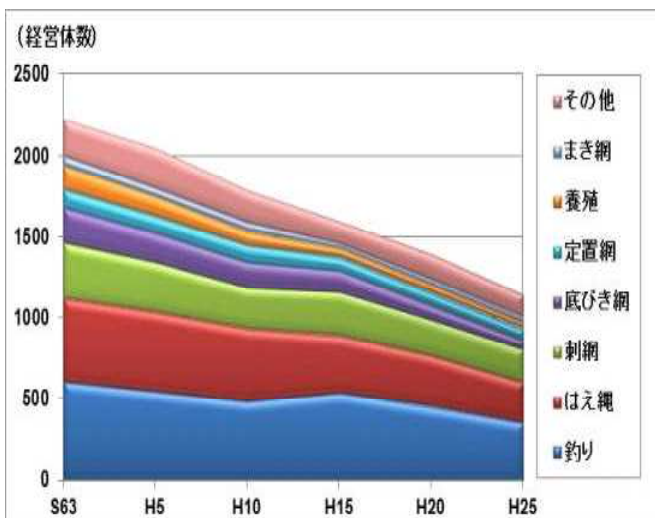
主とする漁業種類別経営体の推移

単位：経営体

年度	計	底びき網	まき網	船びき網	刺網	かつお一本釣	その他の釣	まぐろはえ縄	その他のはえ縄	定置網	採貝採藻	その他海面漁業	海面養殖
S63	2,232	211	59	27	347	66	541	161	353	114	121	84	148
H5	2,051	180	54	27	309	52	492	182	312	103	82	137	121
H10	1,792	159	57	25	259	73	415	177	266	104	93	77	87
H15	1,603	133	33	24	272	48	487	175	182	84	53	56	56
H20	1,402	97	34	26	228	46	409	165	144	78	70	59	46
H25	1,153	63	33	23	201	38	317	148	101	73	58	59	39
対20年比(%)	82.2	64.9	97.1	88.5	88.2	82.6	77.5	89.7	70.1	93.6	82.9	100.0	84.8
H25構成比(%)	100.0	5.5	2.9	2.0	17.4	3.3	27.5	12.8	8.8	6.3	5.0	5.1	3.4

資料：漁業センサス

主とする漁業種類別経営体の割合



平成25年主とする漁業種類別経営体の割合



## 2) 漁業層別経営体数

平成25年の海面漁業経営体数を漁業層別にみると、全経営体数の約83%を占める沿岸漁業層は960経営体で、平成20年に比べ232経営体(19.5%)減少しました。

中小漁業層(かつお・まぐろ・まき網漁業)は193経営体で、平成20年に比べ17経営体(8.1%)減少しました。

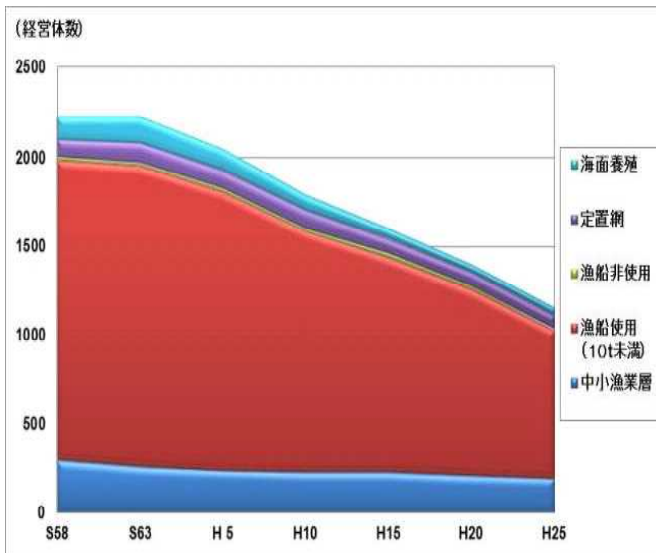
経営体階層別及び漁業層別経営体数

単位：経営体

年	計	経営体階層別経営体												漁業層別経営体				
		漁船非使用	無動力漁船	船外機付漁船	漁船使用										定置網	海面養殖	沿岸漁業層	中小漁業層
					動力	1トン未満	1~3	3~5	5~10	10~20	20~30	30~50	50~100	100トン以上				
S58	2,237	21	1	-	174	465	921	128	101	16	59	81	39	98	130	1941	296	
S63	2,232	17	-	-	233	442	873	146	103	5	44	78	28	114	148	1974	258	
H5	2,051	16	-	-	224	372	822	156	107	6	31	64	29	103	121	1814	237	
H10	1,792	14	-	-	171	299	727	164	114	7	30	40	35	104	87	1566	226	
H15	1,603	23	-	-	138	275	667	130	126	6	28	29	41	84	56	1373	230	
H20	1,402	19	-	79	48	241	581	100	122	6	31	22	29	78	46	1192	210	
H25	1,153	16	-	79	18	175	463	97	113	8	30	18	24	73	39	960	193	

資料：漁業センサス

漁業層別経営体数の推移



平成25年漁業層別経営体数の割合



### (3) 漁業就業者数

#### 1) 新規就業者数

平成29年に新たに就業した漁業者は、53人でした。

過去5年間の新規就業者内訳

単位：人

	H24	H25	H26	H27	H28	H29
中学校卒業者	1	1	3	2	1	1
高校・大学・専門学校卒業者	8	14	3	4	12	22
県立高等水産研修所	8	10	8	5	9	10
他産業からの就業者等	14	29	21	34	33	20
合計	31	54	35	45	55	53

#### 2) 年齢別就業者数

本県の漁業就業者の年齢構成については、10代、20代が非常に少なく、60代以上が57%を占めており、年々高齢化が進んでいます。

平成28年正組員数年齢別構成（法人を除く）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
正組員数 (人)	3	65	214	273	383	1,241	2,179
割合	0.1%	3.0%	9.8%	12.5%	17.6%	57.0%	—

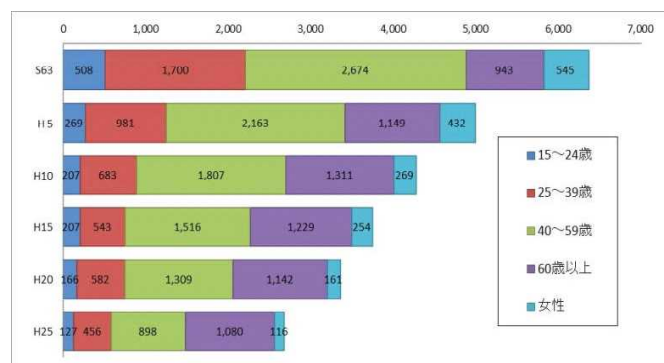
資料：宮崎県水産業協同組合要覧

#### 3) センサス年ごとの就業者数の推移

5年に一度実施される漁業センサスの結果を基に漁業就業者数の推移を見てみると、平成25年は昭和63年に比較して3,693人（58%）減少しました。

また、男子就業者について年齢別にみると、平成25年は昭和63年に比較して、65歳以上が226人（49.9%）増加しています。

男女・年齢別漁業就業者数の推移



男女・年齢別漁業就業者数

区分	総計	男						女
		小計	15~24歳	25~39歳	40~59歳	60歳以上	うち65歳以上	
(セ) S63	6,370	5,825	508	1,700	2,674	943	453	545
(セ) H5	4,994	4,562	269	981	2,163	1,149	555	432
(セ) H10	4,277	4,008	207	683	1,807	1,311	749	269
(セ) H15	3,749	3,495	207	543	1,516	1,229	847	254
(セ) H20	3,360	3,199	166	582	1,309	1,142	792	161
(セ) H25	2,677	2,561	127	456	898	1,080	679	116
対S63年比(%)	42.0	44.0	25.0	26.8	33.6	114.5	149.9	21.3
H25構成比(%)	100.0	95.7	4.7	17.0	33.5	40.3	25.4	4.3

資料：漁業センサス



## (4) 水産団体

### 1) 水産団体の状況

平成29年3月末時点の本県の水産業協同組合は、単位組合が74組合あり、その内訳は、沿海漁協20組合、内水面（河川）漁協40組合、漁業生産組合11組合、業種別組合1組合、水産加工業協同組合2組合となっています。

また、連合会は、県漁業協同組合連合会、県信用漁業協同組合連合会、県内水面漁業協同組合連合会、県無線漁業協同組合連合会があり、本県水産業協同組合の中核的役割を果たしています。

沿海漁協については、厳しい経営環境の中、漁業生産額や漁業者（組合員）などの減少が続いているため、今後とも漁業・漁村の中核組織としての役割を果たせるよう、県漁業協同組合連合会などの系統団体が中心となって地域連携による事業の合理化等の機能・基盤強化の取組を行っています。

#### 水産団体の状況

(平成29年3月末)

組織別	事業別組合数	現在数	事業別組合数									
			信用事業	共済事業	購買事業	販売事業	製氷冷凍冷蔵事業	漁業自営	加工事業	漁業指導事業	無線事業	
単位組合	沿海漁協	出資	20	0	17	19	18	11		7	20	2
		非出資										
		計	20	0	17	19	18	11	0	7	20	2
	内水面漁協	出資	7						1		7	
		非出資	33								33	
		計	40	0	0	0	0	0	1	0	40	0
	沿海・内水面漁協計		60	0	17	19	18	11	1	7	60	2
	業種別漁協	出資	1			1					1	
		非出資										
		計	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0
漁協計		61	0	17	20	18	11	1	7	61	2	
漁業生産組合		11						11				
水産加工業協同組合		2			2	1				1		
単協計		74	0	17	22	19	11	12	7	62	2	
連合会	漁業協同組合連合会	出資	2			2	1	1			2	
		非出資	1									1
		計	3	0	0	2	1	1	0	0	2	1
	信用漁業協同組合連合会	1	1									
連合会計		4	1	0	2	1	1	0	0	2	1	

1 出資漁業協同組合連合会には大臣認可の2連合会を含む

2 出展：「都道府県知事認可水産業協同組合年次報告」参照

### 2) 沿海地区漁業協同組合の組織状況（1組合平均）

区分	組合員数	職員	貯金	貸付金	購買	販売	出資金
	人	人	千円	千円	千円	千円	千円
本県	156.0	10.20	2,255,628	1,635,557	219,888	1,485,803	187,792
全国平均	327.9	12.87	9,734,165	1,099,270	205,456	1,477,976	218,440

1 出展：平成27年度の水産業協同組合統計表を参照。

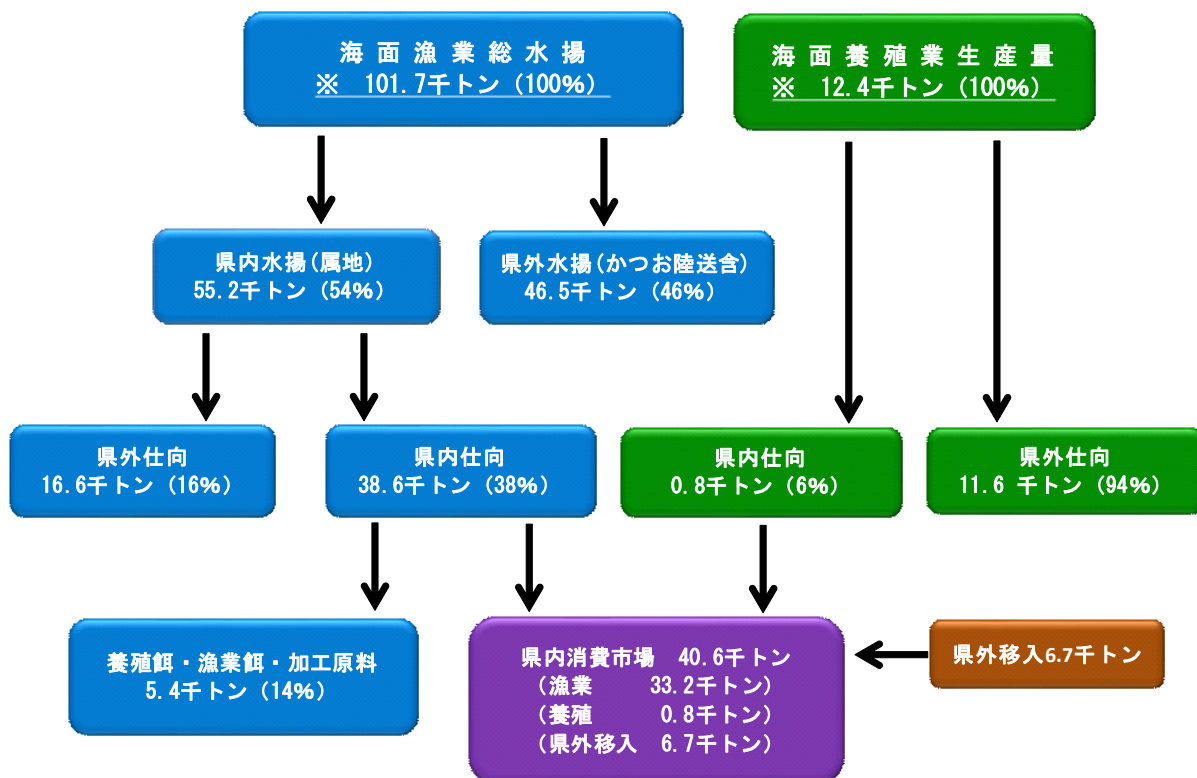
2 本県沿岸地区漁協の1組合平均数値については、事業実施組合数に応じ、各項目の合計数を除いた数値。（販売の数値については、受託販売品取扱高を母数とする。）

### 3 水産物の流通

#### (1) 水産物流通の現状

##### 1) 出荷先別割合

海面漁業の総水揚げ101,748トンのうち、54.0%が県内に水揚げされ、46.0%が県外に水揚げされています。海面養殖業については、生産量12,376トンのうち、94.0%が県外仕向となっています。



資料：実数については、農林水産省「平成28年漁業・養殖業生産統計」を用い、「漁協・市場聞き取り調査」及び「地方卸売市場実態調査」の結果から算出した仕向先比率を用いて仕向量を推定。

## (2) 水産物卸売市場の現状

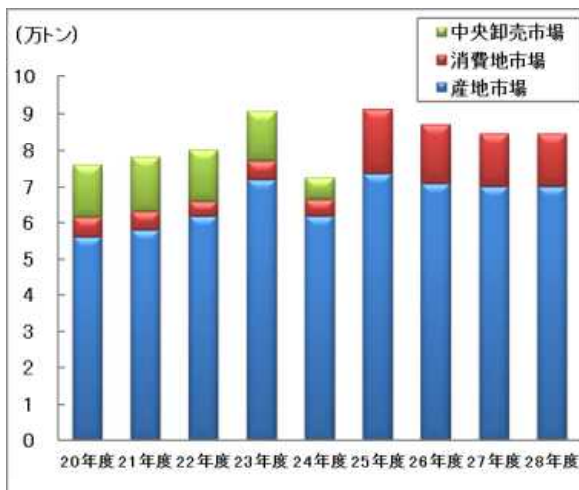
県内には、消費地市場（5市場）、産地市場（14市場）があります。

平成28年度の県内市場の取扱量は合計84,670トンで、取扱金額については、合計19,975百万円でした。

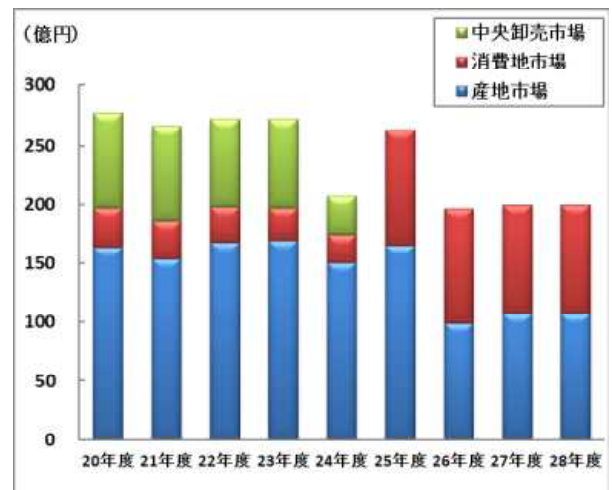
市場名		取扱高(27年度)		取扱高(28年度)		主要品目 (鮮魚)
		量 (トン)	金額 (百万円)	量 (トン)	金額 (百万円)	
消費地市場	宮崎市公設地方卸売市場(株)宮崎魚市場	11,445	7,468	10,559	7,183	カツオ、マグロ類、ブリ類
	地方卸売市場(株)延岡魚市場	2,588	1,093	2,321	937	アジ類、サバ類、ブリ類
	地方卸売市場(株)日向魚市場	269	174	223	87	アジ類、カツオ、マグロ類
	地方卸売市場(株)小林魚市場	407	350	396	341	ブリ類、アジ類、マグロ類
	都城市公設地方卸売市場(株)都城中央魚市場	1,140	847	1,039	721	ブリ類、アジ類、マグロ類
	小計	15,849	9,932	14,538	9,269	
産地市場	北浦漁業協同組合地方卸売市場	62,827	5,260	52,538	4,800	サバ類、イワシ類、ブリ類
	島浦町漁業協同組合地方卸売市場	12,794	612	8,067	496	サバ類、イワシ類、ブリ類
	延岡市漁業協同組合地方卸売市場	404	268	436	239	シラス、アオメエソ、タチウオ
	庵川漁業協同組合地方卸売市場	1,588	675	1,322	639	イワシ類、アジ類、タチウオ
	門川漁業協同組合地方卸売市場	374	171	394	182	シラス、ハモ、カツオ
	日向市漁業協同組合地方卸売市場	1,730	819	1,589	727	マグロ類、タチウオ、サワラ
	日向市漁業協同組合幸協支所地方卸売市場	日向市漁業協同組合地方卸売市場に含む				シラス、エビ類、サワラ
	川南町漁業協同組合地方卸売市場	412	275	400	283	シイラ、サワラ、ニベ類
	日南市漁業協同組合地方卸売市場	2,386	2,211	1,984	1,720	マグロ類、シイラ、トビウオ類
	南郷漁業協同組合地方卸売市場	3,676	1,400	3,163	1,409	カツオ、マグロ類、アジ類
	串間市東漁業協同組合地方卸売市場	6	10	6	5	トビウオ類、タイ類
	串間市漁業協同組合地方卸売市場	81	125	126	136	シラス、エビ類、タイ類
	都農町漁業協同組合小規模卸売市場	105	65	99	66	フグ類、タイ類、ハモ
	串間市東漁業協同組合小規模卸売市場	11	5	8	4	トビウオ類、イカ類
小計	86,394	11,895	70,132	10,706		
合計	102,243	21,827	84,670	19,975		

資料：地方卸売市場実態調査

水産物取扱量



水産物取扱高



※平成26年度分調査より、市場を通過しない養殖生産物は計上していない

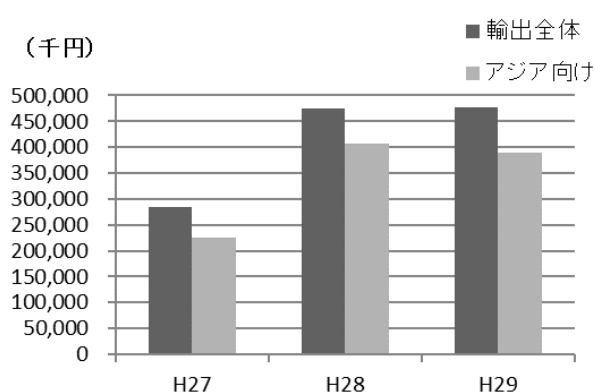
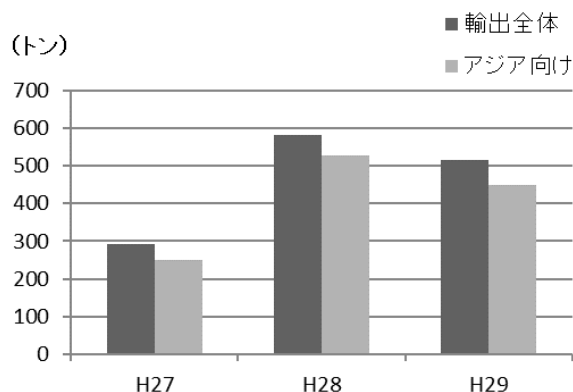
### (3) 水産物輸出の現状

#### 1) 水産物輸出数量と輸出額の推移 (概数)

数量 (トン)、金額 (千円)

水産物	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額
輸出合計	293	283,375	582	474,707	514	475,989
アジア向け	249	224,401	528	407,250	450	388,658

\* 水産政策課調べ



#### 2) 輸出先国の推移

年度	輸出先国
H25	香港、シンガポール、台湾、EU、韓国
H26	香港、EU、マレーシア、オーストラリア、ベトナム、タイ、韓国、中国、台湾、インドネシア、シンガポール
H27	香港、EU、タイ、台湾、韓国、ベトナム、マレーシア、ドバイ、オーストラリア、中国、シンガポール、ノルウェー、インドネシア、ロシア
H28	香港、EU、タイ、台湾、韓国、ベトナム、マレーシア、ドバイ、オーストラリア、中国、シンガポール、ノルウェー、インドネシア、ロシア、モルディブ
H29	香港、EU、タイ、台湾、韓国、ベトナム、マレーシア、ドバイ、中国、シンガポール、スイス、インドネシア、ロシア、モルディブ、アメリカ

\* EUは一カ国とする

#### 3) 主要登録必要国の認定・登録施設数

	国名	全国	宮崎県
認定施設	アメリカ	365	2
認定施設	EU	39	1
登録施設	中国	1547	9
登録施設	ロシア	425	3
登録施設	ウクライナ	154	0
登録施設	ナイジェリア	129	0
登録施設	ブラジル	77	1
登録施設	ベトナム	665	4
登録施設	韓国	98	0

\* 水産政策課調べ (平成30年4月現在)

## 4 生産基盤

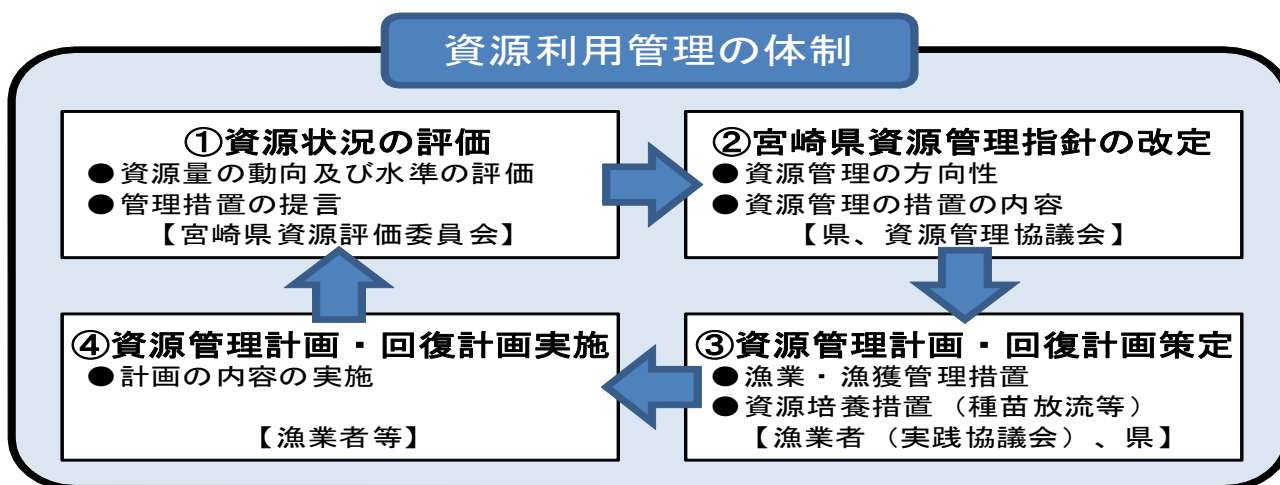
### (1) 適切な資源管理の推進

#### 1) 資源管理体制の概要

平成23年8月22日に策定した「宮崎県における水産資源の利用及び管理に関する基本方針」に基づいた資源管理を実施しています。

この体制では、客観的に評価した水産資源の状況に応じた資源管理の取組を県漁連、漁協、漁業者で構成される宮崎県資源管理実践漁業者協議会（以下、「実践協議会」）において協議し、決定した管理措置を実践し、その成果についても、資源評価を繰り返し検証することで、必要に応じて取組内容の見直しを行い、資源管理の実効性を高めています。

資源管理は、資源評価の結果に応じて改定される「宮崎県資源管理指針」に沿って、漁具・漁法の制限や禁漁期・禁漁区の設定、十分に成長して経済価値を高めた資源を利用するための小型魚の保護措置（再放流サイズの設定など）、産卵を控えた親魚の保護、資源培養措置としての種苗（稚魚）の放流などを組み合わせて取り組まれています。



#### 2) 平成29年度の資源評価結果と資源管理指針の改定

これまでに宮崎県資源評価委員会において資源評価された21種類の沿岸資源のうち、平成29年度に再評価された10種類について、資源状況を踏まえた資源管理指針の見直しと改定を行いました。

#### 3) 積極的な増殖措置（稚魚の放流等）

沿岸資源の回復を図るための積極的な増殖措置として、ヒラメ・マダイ・カサゴ・アマダイ等の人工種苗（稚魚）の放流を行い、放流水域における他の資源管理措置との連携の下で、水産資源の安定化を図っています。また、稚魚等の成育の場として重要な藻場・干潟等の保全など、漁場の基礎生産力を向上させる施策に取り組んでいます。

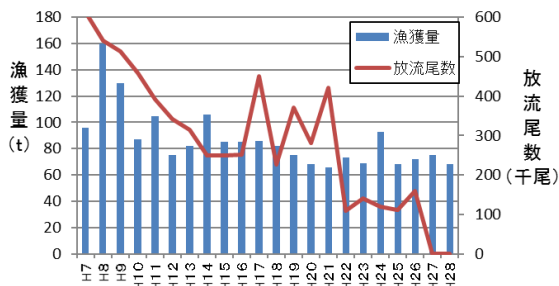
#### 4) 宮崎海域アマダイ類の資源回復

高級魚であり、本県沿岸の重要な水産資源であるアマダイ類の漁獲量は、平成元年の246トンピークを以後減少し、近年では10トン前後と低迷しています。このアマダイ類の資源を回復し、漁獲量の増大を図るため、平成28年10月25日に宮崎海域アマダイ類の資源回復計画を策定、公表しました。この計画に基づき、1

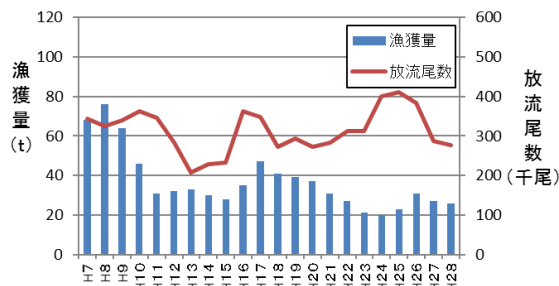
～3ヶ月間の休漁や小型の釣り針の使用制限、漁獲量の上限の設定といった漁獲制限により産卵する親魚の量を増やすとともに、種苗放流を行い、資源回復、漁獲の増大を図っています。

### 種苗放流

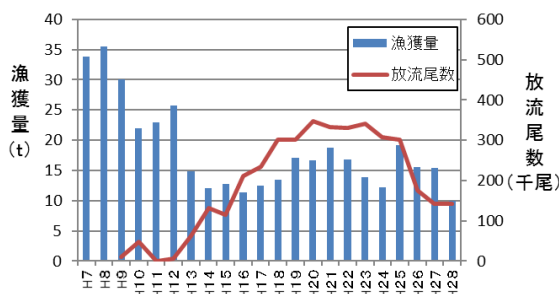
マダイの漁獲量と放流尾数の推移



ヒラメの漁獲量と放流尾数の推移



カサゴの漁獲量と放流尾数の推移



### 藻場・干潟等保全活動

市町村名	対象資源	主な活動組織名	実施計画面積	主たる活動項目
延岡市	藻場	北浦地区藻場保全会	5.5ha	食害生物の除去(ウニ類) 保護区域の設定
	サンゴ礁	島野浦サンゴ礁保全会	8.0ha	保護区域の設定 サンゴの移植
	藻場	南浦藻場保全会	5.5ha	母藻の設置 食害生物の除去(ウニ類)
	干潟	妙見湾干潟保全会	9.7ha	耕うん 稚貝等の沈着促進
門川町	藻場	庵川藻場干潟保全会	5.0ha	食害生物の除去(ウニ類) 母藻の設置
	藻場	門川湾を再生する会	1.3ha	食害生物の除去(ウニ類) 保護区域の設定
日向市	藻場	平岩採介藻グループ	9.4ha	食害生物の除去(ウニ類) 浮遊堆積物の除去
串間市	藻場	串間市崎田地区藻場保全会	6.0ha	母藻の設置 食害生物の除去(ウニ類)

## (2) 保護水面

水産資源の生息環境を良好な状態で保全し、維持するとともに、対象生物を積極的に保護培養することにより、生産基盤の確保と資源の維持増大を図っています。本県では水産資源保護法に基づき、次表の区域を保護水面として指定し、保護を進めています。

名称	区域	指定年月日	面積・長さ
チョウセンハマグリ	日向市地先	昭和43年10月16日	1.32km <sup>2</sup>
アユ	延岡市五ヶ瀬川	昭和41年12月13日	22km

### (3) 内水面資源の増殖

内水面漁協は内水面漁場管理委員会指示に基づきウナギ、アユ、ヤマメ等の放流を行うほか、各漁協の自主的な放流を実施しています。また、県では、ヤマメ、ウナギ、アユ等の放流や魚道改良、産卵場造成、石倉設置等による資源の増殖を支援しています。

#### 河川放流実績

単位：尾

年度	アユ	ウナギ	コイ	フナ	ヤマメ	モクズガニ
H11	2,276,800	534,120	963,744	31,000	545,419	105,768
H12	2,520,000	686,370	841,262	40,970	501,686	84,816
H13	2,366,660	635,500	780,221	45,270	529,680	83,620
H14	2,913,400	857,450	749,182	29,815	759,978	70,520
H15	2,852,600	822,700	651,032	34,930	577,226	68,680
H16	3,446,980	1,043,580		66,840	515,150	112,280
H17	3,500,360	914,990		82,170	612,450	86,312
H18	3,961,260	1,054,500		95,973	631,337	77,484
H19	3,852,180	1,107,050		111,967	585,957	135,640
H20	3,953,340	905,710		97,567	623,883	113,180
H21	3,781,940	922,950		71,156	626,485	103,940
H22	4,769,520	369,060		23,250	801,251	118,780
H23	3,990,360	728,500		47,750	684,890	92,680
H24	4,646,160	176,150		58,610	833,250	113,820
H25	4,709,900	213,950		61,114	780,867	163,160
H26	4,657,260	568,080		28,600	732,669	145,812
H27	4,576,720	516,500		30,000	780,448	131,160
H28	3,848,000	99,540	4,010	15,600	735,298	124,960

※放流尾数の把握が困難な魚種については、放流数量を1尾当たりの重量で除して算出  
(換算値：アユ5g/尾、ウナギ10g/尾 (H28からは50g/尾)、モクズガニ25g/尾)

資料：水産政策課調べ



放流の様子

## (4) 水産基盤（漁港・漁場）の整備

### 1) 漁場

本県沿岸地形は単調で、湾入に乏しく、また海底地形においても天然礁に恵まれず、魚類等の滞留性に欠けるため、従来から魚礁設置及び増養殖場造成等の基盤整備事業を展開してきました。

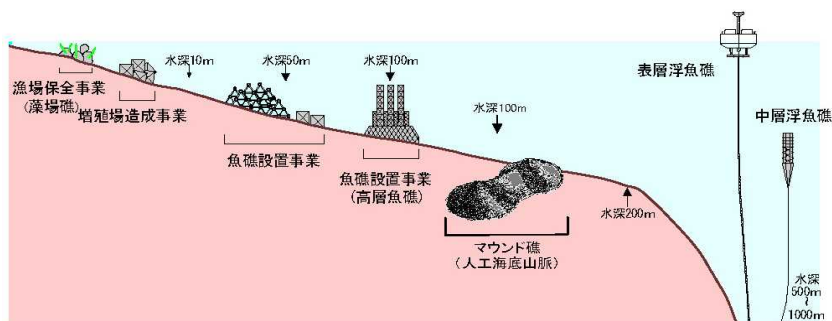
本県では、昭和51年度から平成13年度まで実施した沿岸漁場整備開発事業と平成14年度に着手した水産基盤整備事業により魚礁漁場、増殖場、養殖場の造成や漁場の保全を積極的に推進してきました。

平成21年度からは、本県初となる、マウンド礁（人工海底山脈）を2地区整備し、資源の基礎生産力の向上を図っており、平成29年度には、表層型浮魚礁の更新、「南部浅海増殖場（串間工区）」の餌料培養型増殖礁を設置、藻場ビジョンの計画策定及び既存魚礁の機能強化に着手したところです。

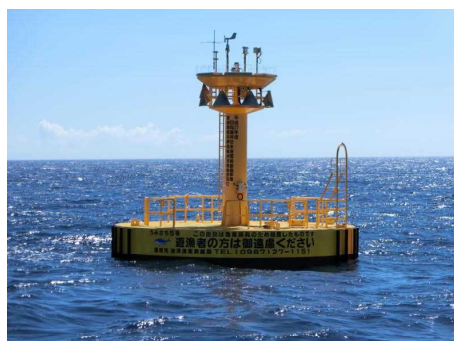
また、ICTを利用した操業の効率化の実現に向けて、漁業用としては国内初の海洋レーダーの整備に着手したところです。

漁場整備種類毎の整備実績

種類	概要	整備実績
漁場保全	養殖場の海水交換を促進するための浚渫、藻場造成	36 ha
増殖場造成	水産生物の隠れ場、産卵の場等を供給するための環境改善	511 ha
魚礁漁場造成	既存の漁場、天然礁を補完するためのコンクリートブロック等の耐久性資材による魚礁の設置	3,057 千空m <sup>3</sup>
養殖場造成	養殖漁場の拡大を行うための消波堤の設置	273 ha
マウンド礁	人工海底山脈の造成により整備される漁場	121,771 空m <sup>3</sup>



日向灘における一体的な漁場整備イメージ図



うみさち5号  
(2017年12月更新)



着定基質投入前状況  
(南部浅海増殖場 串間工区)



## 2) 漁港

漁港整備長期計画の経緯（修築・改修・水産基盤整備）

計画名	総事業費(千円)	漁港名
第1次整備	284,850	油津漁港外 5漁港
第2次整備	803,983	青島漁港外 8漁港
第3次整備	1,278,516	青島漁港外 11漁港
第4次整備	1,879,698	油津漁港外 13漁港
第5次整備	3,237,593	門川漁港外 14漁港
第6次整備	10,622,620	目井津漁港外16漁港
第7次整備	15,635,572	目井津漁港外14漁港
第8次整備	20,612,972	北浦漁港外 14漁港
第9次整備	33,501,923	島野浦漁港外20漁港
第1次漁港漁場整備	16,382,831	川南漁港外 17漁港
第2次漁港漁場整備	9,849,743	川南漁港外 16漁港

第3次漁港漁場整備長期計画（平成24年度～）

事業名	事業港数	漁港名
水産流通基盤整備事業	5	北浦漁港外 4漁港
水産物供給基盤機能保全事業	21	北浦漁港外 20漁港
漁港施設機能強化事業	10	島野浦漁港外 9漁港
漁港環境整備事業	2	油津漁港外 1漁港
港整備交付金	4	市木漁港外 3漁港

漁港の種類

※1種11港、2種5港、3種5港、4種2港

漁港名	北 浦	宮之浦	島野浦	土々呂	門 川	油 津	目井津	南 浦
種 類	4	4	3	3	3	3	3	2
漁港名	川 南	青 島	大堂津	都 井	都 農	富 田	野 島	鶯 巢
種 類	2	2	2	2	1	1	1	1
漁港名	富 土	宮浦(鵜戸)	鵜 戸	夫婦浦	市 木	本 城	福島高松	
種 類	1	1	1	1	1	1	1	

第1種漁港…その利用範囲が地元の漁業を主とするもの

第2種漁港…その利用範囲が第1種漁港よりも広く、第3種漁港に属しないもの

第3種漁港…その利用範囲が全国的なもの

第4種漁港…離島その他辺地において漁場の開発又は漁船の避難上特に必要なもの

## (5) 共同利用施設の整備

水産物の安定供給の確保と水産業の健全な発展を目的に、漁業経営構造改善事業や産地水産業強化支援事業(強い水産業づくり交付金)を活用し、漁業生産環境の改善に必要な施設の整備及び持続的な漁業生産体制を構築するのに必要な共同利用施設等の整備を進めています。

また、ロケット打ち上げに伴う種子島周辺海域での操業規制の影響緩和を目的とした種子島周辺漁業対策事業により、平成29年度は、宮崎市漁協の冷凍冷蔵施設の更新、串間市東漁協の燃油施設の更新の他9件の共同利用施設整備への補助を行いました。

### 1) 荷さばき施設

荷さばき施設とは、漁獲物の選別、計量、入札までの保管、入札、荷造り、発送等の作業を行う施設です。県内22港(※)に整備されています。

(※共同利用施設のある県内の漁港、港湾の数です。)



島浦町漁協の衛生管理型荷さばき施設と魚函積機

### 2) 漁具保全施設

漁具保全施設とは、漁業者が使用する漁具の整備作業の効率化や漁具の延命化を目的とした施設です。



日南市漁協の漁具保全施設

### 3) プレジャーボート係留施設

漁港を利用している漁船とプレジャーボートの係留場所を分離し、漁船の漁業活動を円滑にするための施設です。県内1箇所に整備されています。



延岡市漁協のプレジャーボート係留施設

### 4) 地域産物販売提供施設

地域産物販売提供施設とは、地産地消を推進し、魚食普及や消費拡大等を目的に直販施設や地域水産物を提供する食堂を整備した施設です。県内7か所に整備されています。

施設名	開設者	形態	開設年月
魚乃里 ぎょれん丸	宮崎県漁連	直販所、レストラン	H19. 1
ふれあい館	島浦町漁協	直販所	H15. 4
海の駅 ほそしま	日向市漁協	直販所、レストラン	H20. 11
直売所 通浜	川南町漁協	直販所	H27. 3
漁師の味 港あおしま	宮崎市漁協	直販所、レストラン	H15. 3
港の駅 めいつ	南郷漁協	直販所、レストラン	H17. 2
港の駅 いままち	串間市漁協	直販所	H26. 7



直売所 通浜 (H27. 3月開設。H25, 26年度種子島周辺漁業対策事業)

## (6) 漁業の免許・許可

### 1) 漁業権漁業

海面における漁業権は、定置漁業11件、区画漁業20件、共同漁業35件が免許されています。定置漁業は県北及び県南においてブリ等を対象に、区画漁業は県北のリアス式海岸や串間市地先でブリ、カンパチ、タイ等の魚種を主体に営まれています。また、共同漁業はアワビ、ウニ漁業等の第1種、小型定置や磯建網漁業等の第2種が営まれています。内水面における漁業権は、区画漁業が8件、共同漁業が30件免許されています。区画漁業は一ツ瀬川においてコイ養殖が営まれています。また、共同漁業はアサリ、ハマグリ、シャコ漁業等の第1種、アユ、コイ、ウナギ、ヤマメ、モクズガニ漁業等の第5種が営まれています。

#### 海面における漁業権数

漁業権名	定置漁業権		区画漁業権						共同漁業権				
漁業種類	定置漁業	合計	第1種区画漁業						合計	第1種共同漁業	第2種共同漁業	第3種共同漁業	合計
漁業の名称	ぶり雑魚定置漁業		魚類小割式養殖業	くろまぐろ小割式養殖業	垂下式養殖業	藻類養殖業	真珠養殖業	あわび等漁業		雑魚小型定置漁業	雑魚地曳網等		
件数	11	11	(38)	(2)	(17)	(1)	(1)	20	18	17	0	35	

(注)区画漁業権については、複数の区画漁業を同一区画漁業権として管理する方式へ変更したため合計と合致しない

#### 内水面における漁業権数

漁業権名	区画漁業権		共同漁業権		
漁業種類	第1種区画漁業	合計	第1種共同漁業	第5種共同漁業	合計
漁業の名称	こい小割式養殖業		あさり漁業等	あゆ漁業等	
件数	8	8	10	20	30

### 2) 許可漁業等

許可漁業には、大臣許可漁業及び知事許可漁業等があり、約1,000件が許可されています。

大臣許可漁業は、本県の主幹漁業の一つであるかつお・まぐろ漁業が主体であり、大型船は県南地区を主体に、また、20トン未満船は日向、川南、日南地区等で多く営まれています。知事許可漁業は、下表のとおり種々ありますが、イワシ、アジ、サバを対象とする中型まき網漁業は県北地区を主体に営まれるとともに、その他大半の漁業は各種許可漁業や自由漁業との組み合わせにより操業しています。

また、海区漁業調整委員会による届出・承認漁業として、かさご延縄届出、あまだい延縄届出と浮魚礁利用承認の3種類があり、約500件が届出・承認されています。

#### 大臣許可（認可も含む）

種類	かつお・まぐろ			沖合底ひき網	大中型まき網	小計	沿岸まぐろはえ縄(届出)	合計
	遠洋(120 <sup>トン</sup> 以上)	新近海(10~120 <sup>トン</sup> )	新小型(10~20 <sup>トン</sup> )					
件数	5	31	67	0	2	105	26	131
経営体数	5	28	60	0	2	95	26	121

#### 知事許可

種類	中型まき網	小型まき網	小型底びき	機船船びき	棒受網	流し刺網	まき刺網	固定式刺網	その他	合計
件数	31	29	163	50	34	185	153	169	86	900

種類	かさご延縄届出	あまだい延縄届出	浮魚礁利用承認
件数	124	68	319

## (7) 漁船の安全操業の確保

### 1) 本県の現状

平成20年4月1日からは「船舶職員及び小型船舶操縦者法」関係省令改正により、ライフジャケットの着用義務範囲が拡大されましたが、依然として海難事故が発生し、尊い人命が失われていることから、効果的な海難事故対策が必要です。

特に、近年にあっては死亡を伴う海難事故の発生が増加傾向にあることから、油津漁業無線局を通じた気象等の情報提供のほか、海上保安部（署）、漁船保険組合などの関係機関と連携した救命胴衣着用率向上に係る取組を実施しています。

### 2) 漁業無線局



本県には宮崎県無線漁業協同組合連合会が運営する油津漁業無線局と、漁協などが運営する海岸局（島野浦、門川、川南、青島、串間）の計6つの漁業無線局があります。

油津漁業無線局は、超短波、中短波、短波無線を有し、24時間体制で日本の東方、南方漁場及び諸外国200海里水域で操業するかつお・まぐろ漁船に対して、生命財産を守るための航行・安全等に関する情報や漁場における漁海況、市況等の漁業情報の伝達を行うことにより、本県漁船の安全で効率的な操業に貢献しています。

油津漁業無線局以外の5つの海岸局は超短波の1ワット無線を使用し、本県沿岸で操業する漁船との通信により、本県漁船の安全操業に貢献しています。

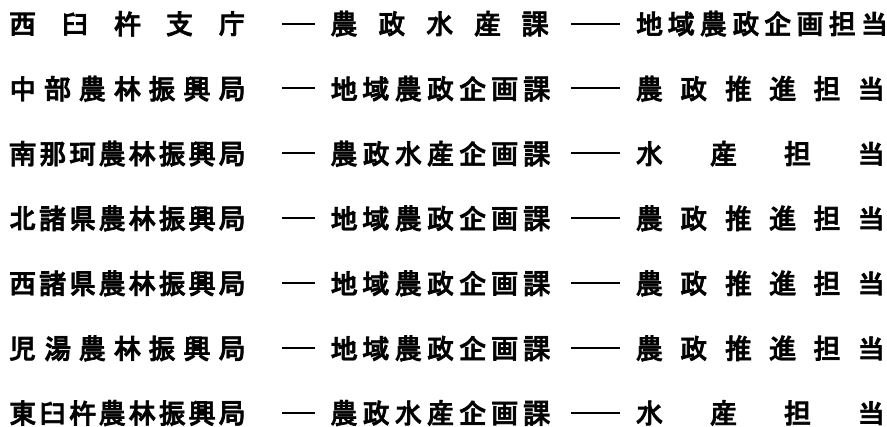
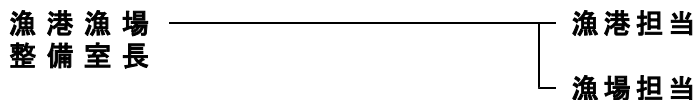
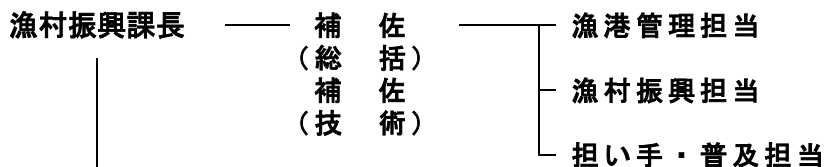
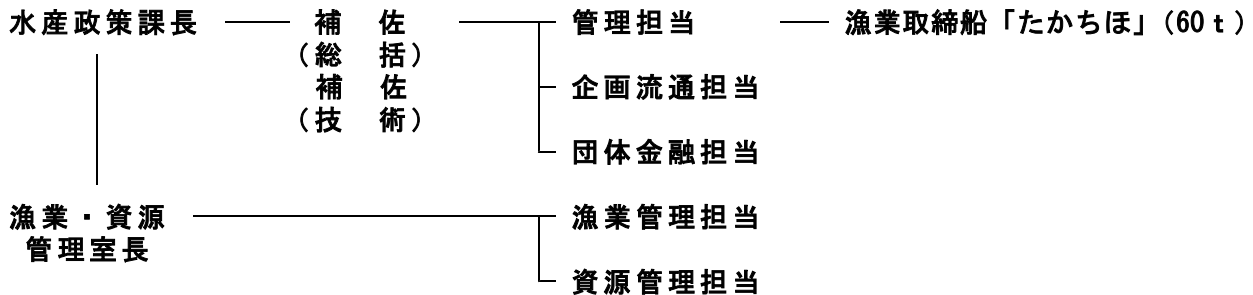
油津漁業無線局を統制局として他の5つの漁業無線局は専用回線で結ばれており、夜間や漁協が休みの時には、統制局である油津漁業無線局が一括聴守する超

短波の24時間聴守体制が確立しています。

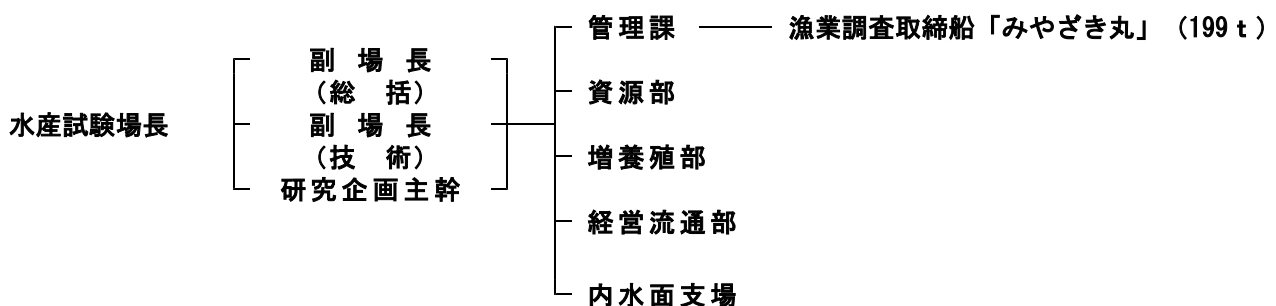
このネットワークを活用し、平成21年度には漁船救助支援システムを整備しました。これは、漁業者が海中に転落するなどの緊急事態が発生した際、船から即座に救急信号が発せられ、それを無線局が聴守し漁船の位置をシステムの画面上に表示するというものです。これにより、緊急時の捜索活動が容易になり、生存救助率が飛躍的に向上することが見込まれています。

# 第 Ⅱ 章 水産行政組織の概要及び分掌事務（平成30年度）

## 1 組織概要



県立高等水産研修所長 — 主任



## 2 主な分掌事務

### 水産政策課

#### 管理担当

- 課の予算及び決算に関すること
- 県有財産の管理に関すること

#### 企画流通担当

- 水産行政の企画及び総合調整に関すること
- 水産物の流通及び加工に関すること
- 水産統計に関すること
- 水産試験場に関すること
- 漁業無線に関すること

#### 団体金融担当

- 水産業協同組合の指導及び検査に関すること
- 水産金融に関すること
- 漁業共済に関すること
- 漁業経営対策に関すること

### ◎ 漁業・資源管理室

#### 漁業管理担当

- 漁業権に関すること
- 漁業の許認可に関すること
- 漁業の調整及び取締りに関すること
- 漁船に関すること
- 遊漁船業に関すること
- 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に関すること。

#### 資源管理担当

- 資源管理に関すること
- 栽培漁業に関すること
- 水産資源の保護及び漁場の保全に関すること
- 漁獲可能量制度に関すること

## 漁村振興課

### 漁港管理担当

- 課の予算及び決算に関すること
- 漁港区域及び海岸保全区域の指定に関すること
- 漁港及び海岸の管理に関すること
- 漁港統計に関すること
- 工事費等の契約事務に関すること

### 漁村振興担当

- 地域漁業改革の推進に関すること
- 養殖業に関すること
- 内水面漁業に関すること

### 担い手・普及担当

- 漁業の担い手育成に関すること
- 水産業改良普及事業に関すること
- 県立高等水産研修所に関すること

## ◎ 漁港漁場整備室

### 漁港担当

- 漁港及び海岸保全施設の建設に関すること
- 漁港、漁港海岸の災害復旧に関すること

### 漁場担当

- 漁場の計画及び漁場事業の実施に関すること
- 水産業共同利用施設の整備に関すること



### 3 県立高等水産研修所

#### 1) 沿革

県立高等水産研修所は、昭和13年に設立された漁村道場宮崎県水産講習所（昭和20年廃止）に始まります。昭和25年に発足した遠洋漁業指導所練習生制度を昭和45年に宮崎県水産講習所に改め、さらに昭和47年に宮崎県高等水産研修所と名称変更しました。

その後、施設の老朽化、漁労関連機器の旧式化が進んだため、平成6年から再編整備が行われ、平成9年4月に県立高等水産研修所と名称を変更し、21世紀の本県水産産業を担う人づくりの中核施設として新たにスタートしました。漁業を行う上で必要な資格を短期間で取得するとともに、優れた漁業就業者となるための技術取得や体力面の向上を目指します。また、全寮制による共同生活を通して自立心、協調性、責任感をつちかいます。

#### 2) 研修体系

養成部門	区分		修業期間	定員	入所資格	
	本科		航海コース	1年	15名程度	中学校を卒業した者又は、これと同等以上の学力を有すると認められる者
	専攻科	前期		4月～9月	若干名	
		後期	10月～3月	若干名	高校卒業者又は、これと同等以上の学力を有すると認められる者、本科を修了した者	
短期		2カ月間	20名程度			

研修部門	研修の種類	研修の内容
	資格取得研修	漁業就業に必要な各種資格取得のための研修
	先進技術研修	資源管理、情報処理、漁業経営講習
	国際漁業研修	外国人技能実習生に対する漁業技術研修
	県民漁業研修	一般県民、児童、生徒に対する研修

#### 3) 取得を目指す免許資格等

区分	研修期間	取得を目指す免許資格
本科生	1年（4月～翌年3月）	第4級海上無線通信士・第1級海上特殊無線技士・4級または5級海技士筆記試験・2級小型船舶操縦士
専攻科・前期	6カ月（4月～9月）	第4級海上無線通信士・第1級海上特殊無線技士・1級小型船舶操縦士
専攻科・後期	6カ月（10月～翌年3月）	4・5級海技士筆記試験（4級か5級のいずれか）・1級小型船舶操縦士
専攻科・短期	2カ月（10月上旬～12月上旬）	4、5級海技士筆記試験若しくは筆記・口述試験

※専攻科は、必要な資格免許により、前期・後期・短期の選択が出来ます。

更に前期から引き続き後期へ、又は後期から引き続き前期への入所も可能です。

#### 4) 入所者数の推移

単位：人

年度	H25	H26	H27	H28	H29
本科生	7	8	10	10	8
専攻科生	4	3	2	2	1
合計	11	11	12	12	9

県立高等水産研修所における研修の内容

種 類	研 修 内 容	対 象 者	定員 (人)	回数 (回)	期間 (日)
資格取得研修	2級小型船舶操縦士養成講習	資格取得のための研修	15	2	15
	1級小型船舶操縦士養成講習	資格取得のための研修	12	2	7
	第4級海上無線通信士養成講習	資格取得のための研修	40	1	15
	第1級海上特殊無線技士養成講習	資格取得のための研修	40	1	7
先進技術研修	資源管理講座	水産生物、資源管理、栽培漁業、漁場環境他	20	1	1
	情報処理講座	パソコンを利用した水産情報処理、人工衛星利用システム他	20	1	1
	漁業経営講座	営漁計画（個別）、流通加工他	20	1	1
国際漁業研修	外国人漁業研修 ※県内漁協が受け入れた外国人技能実習生を対象に実施	漁船運航技術 漁船機関機器の取り扱い 漁業技術	75	3	3
県民漁業研修	マリンスポーツ講座	漁業関係法規、海事法令、マリンスポーツ体験	30	1	1
	漁業体験研修講座	水産一般 ロープワーク等	30	1	1
	宿泊体験学習講座	児童・生徒に対する海洋・漁業体験学習	30	1	1



県立高等水産研修所外観

県立高等水産研修所ホームページ

<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/contents/org/nosei/suisan/kenshujo/>

## 4 水産試験場

### 1) 試験研究体制

明治36年に水産試験場を設置、その後昭和22年に遠洋、沿岸、淡水の各漁業指導所となり、昭和45年に水産試験場を宮崎市青島に再設置、各指導所は廃止し、日南分場（昭和62年廃止）、延岡分場（(財)宮崎県栽培漁業協会の発足に伴い平成4年に廃止）、小林分場を設置。平成26年に組織改正を行い、研究部署を再編し、小林分場を内水面支場に改組しました。調査取締船みやざき丸は平成15年に竣工し、日本近海の漁業資源調査に従事しています。



漁業調査取締船 みやざき丸

### 2) 主な研究内容

第五次宮崎県水産業・漁村振興長期計画及び農畜水産試験研究推進構想に基づき、「漁業の抜本的な収益性の回復」「水産資源の回復と適切な利用管理」「水域環境の保全と環境変化への対応」を重点目標に、平成29年は25の研究課題と15の事業・モニタリングに取り組んでいます。各部門の主要な研究内容・活動は以下のとおりです。

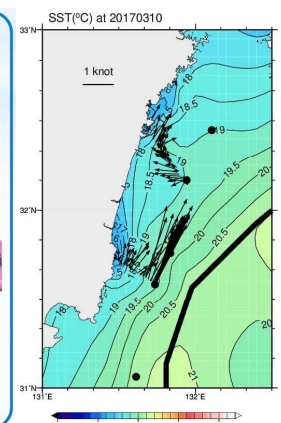
#### 資源部

持続的な漁業生産を実現するため、イワシ・アジ・サバ類のような日本近海規模の資源や日向灘周辺の沿岸資源について、それぞれの特性に合わせた調査を実施し、資源の状況を適確に評価するとともに、種苗放流による資源添加も含め、適切な資源利用となるよう管理技術を開発しています。

また、これらの資源の長期変動や来遊変化は、海洋環境の影響を受けるため、日向灘の海洋モニタリングによる影響評価や海況情報の提供による漁業者支援を進めています。



沿岸資源の評価結果 (左)

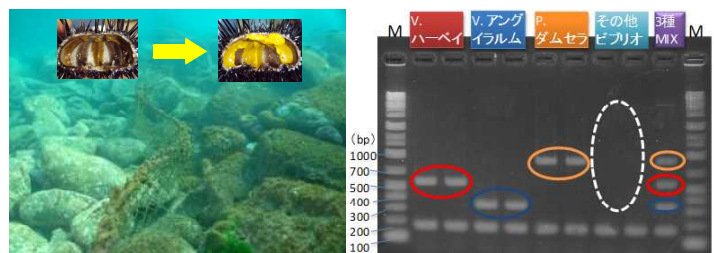


操業支援のための海況情報の提供「海の天気図」(右)

#### 増養殖部

水産資源を育て増やすために、産卵場や生育の場として重要な役割を果たしている藻場をはじめ、浅海域の環境を維持修復するための技術開発を行っています。また、人工種苗による資源造成・管理を可能とするため、対象種の種苗生産技術の開発を行っています。

養殖業においては、収益性の高い飼育技術や健康な魚づくりのための疾病予防技術等を研究するとともに、赤潮被害の軽減や漁場の環境保全に関する研究を行っています。



ウニ除去活動による藻場回復とウニの身入り向上 (左)

遺伝子解析による魚病診断や防疫技術の開発 (右)

## 経営流通部

高収益漁業を構築するため、漁業改革モデルの検証や沿岸・沖合漁業における収益性の分析、操業効率化技術の開発を行っています。漁業調査取締船「みやざき丸」は、日本近海域でのカツオ・マグロ調査として、漁場予測技術の検証と資源来遊状況調査を行っています。

また、漁獲された水産物の付加価値向上や販路拡大のために、常温流通品や小型魚利用技術等の流通・加工技術の開発を行うとともに、オープンラボの運営により市場開拓の取組を支援しています。



みやざき丸によるピンナガ来遊状況調査（左）  
常温加工品の開発支援による付加価値向上や販路の拡大（右）

## 内水面支場

河川や湖沼の内水面の生物環境を保全するため、魚類等の生息状況や生育に適した環境について研究を進めています。また、本県の内水面養殖を支援するため、チョウザメ養殖等に係る種苗生産や養殖技術の改良をはじめ、天然資源の管理が必要なウナギの人工種苗生産につながる基礎研究を行っています。

さらに、優良形質を遺伝子レベルで評価することで迅速に品種改良を進める技術の開発や、近年資源状況が悪化しているアユ資源回復のための総合的な調査を行っています。



河川のアユ資源調査の実施（左）  
ニホンウナギの採卵技術の開発（右上）  
チョウザメの種苗生産（右下）

## 研究企画

水産関係者等の意見を集約して、水産業振興に必要な技術開発内容を整理し、「県農政水産部技術調整会議」で課題化します。同時に、研究成果の評価を受け、これを水産関係者に迅速に還元するとともに、水産試験場の活動内容を広く周知するために、研究成果発表会の開催、成果情報の配布、各種イベント等での研究紹介、ホームページでの情報提供などを行っています。



宮崎県水産試験場ホームページ <http://www.mz-suishi.jp/>

### 3) 主な研究成果

平成28年度が終期となる研究課題等について、16の成果カードを作成し、普及情報として関係者に配布しました。主なものとして、「小型イセエビの放流効果」、「宮崎キャビアの輸出に係る輸送・保存研究」、「C群レンサ球菌症の防疫対策研究」、「在来ヤマメ資源の研究」などがあります。また、平成29年度研究成果発表会では、「環境DNAを利用したカツオ・マグロ調査」、「海産養殖魚で発生している新たなピブリオ病」、「本県の沿岸資源評価と管理」、「県北河川のアユ資源の状況」について報告しました。これらの成果は水試ホームページでご覧いただけます。

# 第 Ⅲ 章

## 平成30年度水産当初予算における重点施策

### 水産政策課

- 1 未来みやざき漁業推進資金** 2,282千円【団体金融担当】

将来を担う漁業経営体を確保し、漁業・漁村の持続的な発展を図るため、意欲ある漁業経営体の収益性の高い漁業への転換や浜の広域的な再編機能等を通じた担い手確保育成等への取組などに対し、漁業近代化資金による利子補給上乗せ措置を重点的に行い、水産業の振興を図る。
- 2 漁業協同組合機能・基盤強化推進事業** 4,140千円【団体金融担当】

「宮崎県内漁業協同組合及び系統組織機能・基盤強化推進方針」に基づいて沿海漁協や系統団体が取り組む地域連携による経済事業の合理化等の機能・基盤強化策の取組を支援する。
- 3 アマダイの資源回復による沿岸資源の持続的な利用推進事業** 4,949千円【資源管理担当】

アマダイ種苗の量産化技術の開発と放流を行うとともに、資源回復計画に基づく資源管理を徹底し、アマダイ資源の早期の回復による漁獲量の増加を実現する。
- 4 五ヶ瀬川水系アユ資源回復プロジェクト推進事業** 12,000千円【資源管理担当】

川・海のアユを守り育てる漁業者の取組や養殖業者の人工産稚アユの導入を支援することで、アユ資源の回復と持続的な資源利用を実現し、五ヶ瀬川水系流域の経済活性化を図る。
- 5 攻めの資源利用管理による儲かる漁業推進事業** 7,689千円【資源管理担当】

資源評価の結果から、資源状況が良好で、種苗放流の効果も高いとみられるヒラメについて、種苗放流を行うことで持続的利用可能な資源を造成し、漁業生産量の増大を図る。あわせて、今後の資源利用管理の手法の幅を広げるため、新たな種苗生産対象種の選定と技術開発を図る。
- 6 藻場・干潟等の保全による沿岸漁場の回復支援事業** 4,541千円【資源管理担当】

漁業の担い手の減少や高齢化により、水産生物の拠り所となる藻場や干潟の管理が困難となる中、漁場環境の悪化や生産力の低下を防止するため、漁業者による漁場環境保全活動を支援し、沿岸水産物の増産を図る。

**7 うなぎ資源持続的利用対策事業 58,080千円【資源管理担当】**

資源の減少が指摘され、国際取引規制の恐れがあるニホンウナギの持続的な利用の確保に向け、国際的な体制の下で国が進めている資源管理や養殖業の規制管理を適正かつ円滑に進め、生産量全国第3位の位置にある本県ウナギ養殖業の持続的かつ健全な発展を図る。

**8 産地一体型宮崎のさかな競争力強化総合支援事業 9,331千円【企画流通担当】**

魚価の下支え及び水産物の付加価値向上を目的に、「県産水産物販売促進会議」の取組強化に向けて、実需者と連携した商品開発を進めるとともに、小規模加工業者等の商品開発に対する支援を行い、新たな「宮崎のさかなビジネス」の拡大と定着化を促進する。

**9 漁業経営安定対策資金 400,000千円【企画流通担当】**

漁業経営の安定を図るため、燃油や養殖用配合飼料の価格高騰対策である国の漁業経営セーフティーネット構築事業への漁業者の加入を維持・促進し、業界が行う無利子貸付事業の運営を支援する。

**10 JAPANキャビア基盤確立支援事業 17,091千円【企画流通担当】**

キャビアの販売力強化の取組を支援するとともに、安定した優良種苗の供給体制の構築等により、本県キャビア産業の持続的な成長産業化を促進する。

## 漁村振興課

### 1 養殖魚の安全・安心対策事業 3,510千円【漁村振興担当】

養殖魚の防疫体制の充実、飼育管理体制の強化及び水産用医薬品の適正使用を推進することで、県民の健康で安全な食生活の確保に向け、生産から流通・消費に至る一貫した養殖魚の安全・安心の確保を図る。

### 2 内水面漁業活性化計画推進事業 3,574千円【漁村振興担当】

モデル河川において、内水面漁業活性化計画に基づく主要課題毎に対応した具体的手法を確立するため、内水面関係者の連携体制を構築するとともにP D C Aによる取組を実践し、県計画の推進を図る。

### 3 高品質カンパチ人工種苗供給体制確立事業 8,006千円【漁村振興担当】

本県海面養殖業における主要な魚種であるカンパチについては、種苗を主に中国で漁獲される天然種苗に依存しており、供給が不安定であることから、養殖業者のニーズに合った良質で安価な人工種苗を県内で安定供給する体制を整備する。

### 4 未来へつなぐ漁業担い手育成総合対策事業 9,644千円【担い手・普及担当】

「漁業への着業支援」、「効率的な漁業への転換支援」及び「漁業者への経営指導」を目的に設立された公益社団法人が行う漁業者を計画的・総合的に確保・育成するためのきめ細やかな担い手対策を支援し、県民への水産物の安定的な供給体制を確立する。

### 5 次世代につなぐ離島漁業支援事業 2,275千円【担い手・普及担当】

本県漁業において重要な地域である島野浦は、離島であることに加え、過疎化・高齢化などにより、地域の存続が危惧される状況であることから、国の離島漁業再生支援交付金制度を活用し、漁業の再生を図り、次世代につなぐ持続可能な地域づくりを推進する。

### 6 浜の力を育てる漁業担い手対策事業 3,548千円【担い手・普及担当】

新規就業希望者と各漁村の受入情報をマッチングし、新規参入と承継を促進する。また、新規着業や高収益型漁業への転換に対するリスク軽減への支援を行うことで、新規参入から着業・承継まできめ細やかな支援体制を構築する。

## 7 地域ぐるみの漁業担い手リクルート活動展開事業

4,129千円【担い手・普及担当】

沿岸漁業者自らが実体験に基づく漁業の魅力情報を発信することで、沿岸漁業への新規参入を促進するとともに、地域の中核的な漁業者が主体的に担い手の確保育成に取り組む体制を構築することで、新規就業者の経営の安定及び定着を図る。

## 8 水産業強化支援事業

15,000千円【漁場担当】

市町や漁協等が、「浜の活力再生プラン」に基づく収入向上やコスト削減を図るために実施する水産資源の増殖を目的とした築いそ等の漁場整備や漁獲物の付加価値向上のための荷捌き施設等の水産基盤整備に対して支援を行う。

## 9 美しい宮崎の港づくり！プレジャーボート適正管理強化事業

9,423千円【漁場担当】

漁港等におけるプレジャーボートの放置艇問題を解決するため、プレジャーボート調査員を配置して、未申請者等対策を推進するとともに、係船環や周知看板等の環境整備を行い公共水域等の適正利用を促進する。

## 10 水産基盤整備事業

1,991,355【漁港担当】

水産物の生産及び流通の基盤となる防波堤等の漁港施設、人工魚礁等の漁場施設整備を推進するとともに、漁港施設の地震・津波対策や老朽化対策を重点的に進める。また、緑地広場等の整備を行い、住みやすい生活環境の確保と暮らしの向上を図る。



# 第 IV 章 資料編

※資料：平成28年度漁業・養殖業生産統計

## 1 各種統計

### (1) 宮崎県の主要指標【海面】

	生産量 (トン)			生産額 (百万円)		
	漁業	養殖業	計	漁業	養殖業	計
5	173,891	7,130	181,021	37,070	8,136	45,206
6	135,726	8,573	144,299	33,833	8,412	42,244
7	126,310	8,803	135,113	32,424	8,306	40,730
8	121,595	8,571	130,166	36,296	9,074	45,370
9	136,691	9,766	146,457	38,820	11,055	49,875
10	109,363	11,367	120,730	35,394	11,559	46,953
11	123,310	13,236	136,546	38,056	12,464	50,521
12	126,331	11,789	138,120	33,298	12,015	45,313
13	90,454	14,820	105,274	31,309	11,908	43,217
14	85,667	17,285	102,952	29,378	10,935	40,313
15	107,854	14,251	122,105	28,146	10,679	38,826
16	101,501	9,559	111,060	29,530	7,145	36,945
17	105,762	12,454	118,216	27,846	8,044	35,890
18	103,020	10,921	113,941	29,915	8,327	38,241
19	107,592	10,319	117,911	31,614	7,684	39,298
20	86,506	11,609	98,115	28,443	9,560	38,003
21	84,715	11,030	95,745	26,058	8,228	34,286
22	92,217	11,510	103,727	26,304	8,660	34,964
23	101,142	11,545	112,687	26,140	8,396	34,536
24	86,534	12,938	99,472	23,427	7,698	31,125
25	104,884	13,257	118,141	25,791	8,533	34,324
26	101,229	11,663	112,892	25,639	7,815	33,454
27	125,878	12,861	138,739	28,397	8,659	37,056
28	101,748	12,376	114,124	25,613	8,437	34,050

### (2) 宮崎県の主要指標【内水面】

	生産量 (トン)		
	漁業	養殖業	計
5	374	4,299	4,673
6	592	4,176	4,768
7	499	4,414	4,913
8	468	4,266	4,734
9	358	4,216	4,574
10	348	4,259	4,607
11	379	4,400	4,779
12	446	4,289	4,735
13	403	3,948	4,351
14	338	4,243	4,581
15	436	4,718	5,154
16	190	4,541	4,731
17	159	4,046	4,205
18	46	4,350	4,396
19	43	4,391	4,434
20	47	4,416	4,463
21	93	4,738	4,831
22	74	4,265	4,339
23	71	5,007	5,078
24	63	4,014	4,077
25	64	3,687	3,751
26	54	3,902	3,956
27	42	4,047	4,089
28	37	3,945	3,982

(3) 漁業種類別漁獲量【海面漁業】

単位：トン

	小型底 びき網	ぱっち網	中小型 まき網	定置網	まぐろ はえ縄	かつお 一本釣	その他 の漁業	合計
元年	1,721	2,796	143,895	3,750	19,138	33,845	6,344	211,489
2	2,016	4,102	157,023	3,970	21,409	28,264	6,309	223,093
3	3,318	4,543	112,968	3,754	19,843	29,580	7,563	181,569
4	1,479	3,079	104,689	3,056	21,260	27,558	6,396	167,517
5	1,486	2,589	103,000	3,328	22,450	30,847	10,191	173,891
6	1,625	4,028	68,908	2,943	20,387	25,146	12,689	135,726
7	1,738	2,354	48,552	3,323	22,974	33,163	14,206	126,310
8	1,680	3,654	53,096	3,366	23,130	27,664	9,005	121,595
9	1,677	3,871	53,785	3,339	24,770	37,441	11,808	136,691
10	1,789	2,537	37,193	2,695	22,922	33,490	8,737	109,363
11	1,522	4,242	50,521	3,103	20,886	37,496	5,540	123,310
12	1,587	4,144	52,080	2,809	21,913	38,228	5,570	126,331
13	1,422	2,177	24,799	3,013	20,784	28,621	9,638	90,454
14	1,184	2,168	25,003	3,256	19,064	27,102	7,890	85,667
15	1,135	4,099	38,372	2,532	19,542	33,462	8,712	107,854
16	1,216	2,694	30,894	3,141	16,667	X	X	101,501
17	1,226	4,746	30,938	4,020	15,729	36,276	12,827	105,762
18	1,191	2,645	34,069	3,689	15,174	32,134	14,118	103,020
19	1,148	3,642	36,966	3,510	15,616	33,653	13,057	107,592
20	953	3,079	24,739	3,468	12,274	30,782	11,211	86,506
21	735	1,996	26,137	3,413	13,461	27,922	11,051	84,715
22	740	2,262	29,289	3,162	14,220	30,170	12,374	92,217
23	657	1,147	34,277	1,552	13,272	29,636	20,601	101,142
24	642	2,534	27,935	4,093	12,114	27,059	12,157	86,534
25	619	3,481	35,191	3,852	10,473	30,629	20,639	104,884
26	593	2,787	36,218	3,713	9,767	23,322	24,829	101,229
27	574	2,504	60,021	4,071	11,948	22,891	23,869	125,878
28	712	2,221	41,387	4,057	11,629	22,141	19,601	101,748

(4) 漁業種類別生産額【海面漁業】

単位：百万円

	小型底 びき網	ぱっち網	中小型 まき網	定置網	まぐろ はえ縄	かつお 一本釣	その他 の漁業	合計
元年	1,198	1,179	4,506	1,013	15,330	14,031	3,182	40,724
2	1,389	1,892	5,581	1,380	16,296	11,627	3,250	41,725
3	1,225	1,271	4,078	1,495	14,708	8,935	3,596	35,790
4	985	1,011	4,570	1,322	16,688	10,453	4,025	39,325
5	888	991	3,906	1,311	17,146	8,753	3,988	37,070
6	1,024	1,500	3,656	1,212	14,233	8,572	3,637	33,833
7	821	987	3,743	1,197	13,612	8,405	3,659	32,424
8	855	1,291	3,666	1,405	14,935	11,320	2,824	36,296
9	966	1,610	3,480	1,309	15,175	12,533	3,747	38,820
10	909	1,035	3,116	1,088	15,216	10,738	3,293	35,394
11	674	1,383	2,977	1,427	13,830	14,956	2,809	38,056
12	639	1,167	3,315	1,259	15,236	8,733	2,949	33,298
13	570	723	2,211	1,241	13,206	9,861	3,496	31,309
14	517	1,009	2,302	1,193	11,670	9,754	2,933	29,378
15	489	1,073	2,559	956	11,772	8,520	2,776	28,146
16	508	1,067	1,981	1,087	11,716	X	X	29,530
17	489	1,448	2,140	1,339	10,567	8,761	3,102	27,846
18	497	929	2,137	1,442	11,107	10,234	3,569	29,915
19	456	1,381	3,228	1,178	11,032	9,191	2,620	29,085
20	360	575	2,069	896	6,961	8,291	2,727	21,879
21	303	600	2,170	1,086	8,735	8,430	2,217	23,542
22	285	684	2,333	1,009	9,330	8,224	2,056	23,921
23	250	349	2,704	1,138	8,292	9,084	1,995	23,811
24	254	809	2,053	1,233	7,893	8,677	1,822	22,742
25	232	1,005	2,941	1,256	7,147	8,997	1,744	23,322
26	230	875	3,959	1,308	6,683	7,894	1,794	22,743
27	250	883	3,867	1,416	8,655	8,689	1,847	25,607
28	267	764	3,310	1,418	8,293	8,097	1,822	23,971

\* 平成19年以降は、宮崎県漁業協同組合連合会の漁業水産統計値を使用

(5) 魚種別漁獲量【海面漁業】

単位：トン

	まぐろ類	かつお類	いわし類	あじ類	さば類	その他魚種	合計
元年	25,022	23,458	138,878	4,501	2,994	16,636	211,489
2	25,036	16,972	152,784	7,742	917	19,642	223,093
3	23,551	22,835	108,814	7,034	722	18,613	181,569
4	26,284	15,482	98,135	6,683	2,311	18,622	167,517
5	26,293	22,409	81,342	17,311	12,296	14,240	173,891
6	24,494	20,504	62,899	11,445	6,244	10,140	135,726
7	28,203	26,517	35,603	19,056	3,915	13,016	126,310
8	31,684	17,754	25,824	12,849	22,489	10,995	121,595
9	32,125	28,422	31,563	13,836	18,086	12,659	136,691
10	26,772	26,128	23,407	14,758	3,188	15,110	109,363
11	25,762	28,539	45,437	4,667	5,083	13,822	123,310
12	26,142	33,338	42,523	7,490	6,597	10,241	126,331
13	24,390	23,101	17,120	12,032	1,918	11,893	90,454
14	24,141	22,329	16,788	11,866	681	9,862	85,667
15	23,254	29,266	23,339	9,063	13,765	9,167	107,854
16	25,346	23,337	20,074	16,235	5,035	11,474	101,501
17	20,695	31,537	13,621	9,340	20,046	10,523	105,762
18	21,507	27,743	19,255	6,225	17,571	10,719	103,020
19	29,939	20,261	29,901	3,988	14,457	9,046	107,592
20	20,981	23,199	13,270	6,411	13,666	8,979	86,506
21	24,887	16,409	19,983	4,119	11,099	8,218	84,715
22	17,161	27,520	13,550	3,983	19,860	10,143	92,217
23	20,830	21,198	21,566	5,015	20,054	12,479	101,142
24	21,436	17,123	19,729	4,386	14,886	8,974	86,534
25	21,295	18,614	34,813	6,979	13,588	9,595	104,884
26	18,728	12,458	36,474	5,145	17,494	10,930	101,229
27	19,001	14,080	62,823	5,365	15,098	9,511	125,878
28	17,034	14,726	42,072	11,007	6,538	10,371	101,748

(6) 魚種別生産額【海面漁業】

単位：百万円

	まぐろ類	かつお類	いわし類	あじ類	さば類	その他魚種	合計
元年	19,087	8,294	4,459	569	159	8,156	40,724
2	18,852	6,522	6,096	974	95	9,186	41,725
3	15,877	6,399	4,281	798	56	8,379	35,790
4	19,184	5,939	4,315	899	135	8,853	39,325
5	18,841	5,041	3,417	1,281	529	7,961	37,070
6	16,384	5,643	3,996	1,041	315	6,454	33,833
7	16,065	5,008	3,254	1,761	274	6,062	32,424
8	18,953	6,608	2,615	1,270	986	5,864	36,296
9	18,811	7,407	3,366	1,302	905	7,029	38,820
10	16,824	8,220	2,253	1,738	201	6,158	35,394
11	18,170	9,175	3,258	696	324	6,433	38,056
12	17,770	6,024	2,986	956	388	5,174	33,298
13	14,833	7,689	2,110	1,017	161	5,500	31,309
14	13,343	8,012	2,342	1,145	64	4,472	29,378
15	12,623	7,506	2,248	1,041	647	4,081	28,146
16	14,271	7,125	2,070	1,347	334	4,383	29,530
17	11,674	7,472	2,195	1,054	991	4,460	27,846
18	13,209	8,070	1,821	976	920	4,919	29,915
19	16,602	6,177	3,021	708	838	4,268	31,614
20	13,259	7,198	2,008	373	1,175	4,430	28,443
21	14,124	5,377	1,476	746	633	3,702	26,058
22	11,894	7,630	1,289	707	1,231	3,553	26,304
23	11,465	7,479	1,466	752	1,143	3,835	26,140
24	11,250	5,779	1,660	679	718	3,341	23,427
25	10,748	6,813	2,658	992	993	3,587	25,791
26	11,365	5,593	2,533	902	1,398	3,848	25,639
27	13,960	5,584	3,624	668	846	3,715	28,397
28	11,356	5,810	2,719	1,079	451	3,848	25,613

(7) 海面養殖業収穫量

単位：トン

	ぶり類	まだい	ひらめ	その他	合計
元年	5,639	1,541		706	7,886
2	6,375	1,617		628	8,620
3	5,616	1,810		668	8,094
4	6,595	1,792		862	9,249
5	4,259	2,067		804	7,130
6	6,250	1,623		700	8,573
7	6,911	1,100	152	640	8,803
8	6,238	1,629	149	555	8,571
9	7,609	1,489	139	529	9,766
10	9,221	1,420	93	634	11,367
11	10,073	2,214	91	859	13,236
12	9,353	1,640	100	1,371	12,464
13	12,803	1,218	129	670	14,820
14	15,824	760	189	512	17,285
15	12,959	793	171	328	14,251
16	8,274	797	X	X	9,559
17	11,366	621	X	X	12,454
18	9,551	771	X	X	10,921
19	8,992	476	193	658	10,319
20	10,534	552	168	355	11,609
21	9,954	X	166	X	11,030
22	10,122	887	141	360	11,510
23	10,223	709	157	456	11,545
24	11,757	684	173	324	12,938
25	12,155	609	108	385	13,257
26	10,816	506	105	236	11,663
27	11,656	791	80	334	12,861
28	11,370	590	63	353	12,376

(8) 海面養殖業生産額

単位：百万円

	ぶり類	まだい	ひらめ	その他	合計
元年	4,790	1,830		1,237	7,857
2	4,552	1,957		1,552	8,061
3	4,019	1,952		1,541	7,512
4	5,751	1,525		1,872	9,148
5	4,713	1,413		1,918	8,044
6	5,462	1,437		1,337	8,236
7	6,006	1,050	270	980	8,306
8	6,057	1,454	278	875	8,665
9	8,111	1,458	225	731	10,525
10	9,110	1,016	173	726	11,025
11	9,640	1,285	188	915	12,464
12	9,739	1,163	166	974	12,015
13	9,813	1,061	240	794	11,908
14	9,371	613	272	679	10,935
15	9,444	526	345	364	10,679
16	6,298	458	X	X	7,415
17	6,768	413	X	X	8,044
18	6,803	608	X	X	8,327
19	6,065	428	275	916	7,684
20	8,466	335	130	629	9,560
21	7,160	X	169	X	8,228
22	7,275	625	172	588	8,660
23	X	522	194	7,680	8,396
24	X	543	231	6,924	7,698
25	7,315	516	153	7,864	8,533
26	6,870	414	155	376	7,815
27	7,430	604	114	511	8,659
28	7,230	482	92	633	8,437

(9) 内水面漁業漁獲量

単位：トン

	ます類	あゆ	こい	うなぎ	ふな	その他	合計
元年	19	133	75	39		433	699
2	21	143	87	35		372	658
3	19	175	85	36		437	752
4	21	140	90	35		442	728
5	22	59	73	33		187	374
6	26	100	89	36		341	592
7	23	91	90	37		258	499
8	24	99	90	31		224	468
9	11	78	80	26	18	145	358
10	11	66	82	26	18	145	348
11	16	78	86	28	16	155	379
12	11	118	95	33	15	102	446
13	7	118	77	17	8	79	403
14	8	104	83	18	11	73	297
15	15	105	84	29	11	85	329
16	2	56	27	10	6	89	190
17	2	52	19	10	5	71	159
18	0	17	3	3	1	22	46
19	0	16	3	4	1	19	43
20	0	16	4	4	1	22	47
21	0	21	13	10	3	46	93
22	1	30	9	7	2	38	87
23	1	18	9	6	3	34	71
24	1	18	8	5	3	28	63
25	1	21	7	3	2	30	64
26	1	16	5	3	2	27	54
27	1	11	4	3	1	22	42
28	1	7	3	3	1	22	37

(10) 内水面養殖業収穫量

単位：トン

	ます類	あゆ	こい	うなぎ	ティラピア	その他	合計
元年	298	655	829	3,270	95	17	5,164
2	265	664	752	3,502	95	12	5,290
3	260	617	789	3,087	74	10	4,837
4	294	642	680	2,952	124	9	4,702
5	193	574	630	2,882	15	4	4,299
6	213	604	580	2,756	15	8	4,176
7	263	532	649	2,965	1	5	4,414
8	283	616	556	2,806	X	X	4,266
9	286	592	807	2,530	X	X	4,216
10	262	595	859	2,541	2	1	4,259
11	242	696	806	2,644	11	2	4,400
12	170	686	589	2,836	5	2	4,289
13	131	759	572	2,485	. . .	. . .	3,948
14	140	679	571	2,853	. . .	. . .	4,243
15	130	692	566	3,330	. . .	. . .	4,718
16	127	686	514	3,215	. . .	. . .	4,541
17	117	586	514	2,829	. . .	. . .	4,046
18	128	560	525	3,137	. . .	. . .	4,350
19	136	474	325	3,725	. . .	. . .	4,661
20	110	484	324	3,498	. . .	. . .	4,416
21	138	559	316	3,725	. . .	. . .	4,738
22	100	425	315	3,425	. . .	. . .	4,265
23	83	464	371	4,090	. . .	. . .	5,008
24	101	431	371	3,111	. . .	. . .	4,014
25	89	391	367	2,840	. . .	. . .	3,687
26	82	289	364	3,167	. . .	. . .	3,902
27	81	256	362	3,348	. . .	. . .	4,047
28	81	248	362	3,255	. . .	. . .	3,945

## (11) 水産加工品生産量

単位：トン

	ねり製品	塩干品	煮干し 品	節製品	冷凍 水産物	その他	合 計
元年	4,777	1,765	2,509	1,560	1,245	1,932	13,788
2	4,810	1,666	2,826	1,524	1,469	1,556	13,851
3	4,544	1,834	2,141	2,234	9,966	1,442	22,161
4	3,898	1,999	1,406	1,960	4,554	1,143	14,960
5	3,477	1,972	1,751	1,215	10,724	1,718	20,857
6	3,585	1,235	1,922	566	10,018	2,766	20,092
7	3,343	1,005	1,151	426	7,645	3,005	16,575
8	3,282	1,062	1,867	1,125	7,864	4,621	19,821
9	3,147	1,354	1,936	1,632	23,087	5,740	36,896
10	3,342	1,710	1,684	655	16,001	5,898	29,290
11	3,486	1,459	2,549	463	20,640	6,353	34,950
12	3,170	1,337	2,512	431	20,533	6,433	34,416
13	2,896	674	1,529	736	12,134	8,206	26,175
14	2,551	652	1,182	530	3,918	8,015	16,848
15	2,371	628	1,737	439	3,161	8,362	16,698
16	1,173	590	1,379	481	11,950	2,944	19,057
17	1,609	X	2,287	664	11,687	X	19,559
18	2,651	577	1,547	877	10,314	1,768	17,734
19	2,683	645	2,040	456	10,511	6,506	22,841
20	X	1,935	2,121	385	14,168	X	27,960
21	X	1,451	1,242	437	19,024	X	30,302
22	2,016	1,323	1,226	404	20,373	4,499	29,841
23	2,203	1,254	719	375	22,989	4,910	32,450
24	2,183	1,249	1,310	365	21,040	5,634	31,781
25	2,422	1,219	1,779	263	25,395	5,340	36,418
26	2,521	1,180	1,398	X	28,530	X	33,629
27	2,760	1,240	1,307	X	42,703	6,259	54,269
28	2,822	1,153	1,322	X	30,757	4,607	40,661

## (12) 水産物製造出荷額

単位：百万円

	ねり製品 製造業	冷凍水産 物製造業	冷凍水産 食品製造業	その他	合 計
元年	3,093	2,447	1,228	9,830	16,598
2	3,372	4,347	X	8,091	X
3	3,284	3,508	1,141	10,841	18,774
4	3,295	3,390	X	9,241	X
5	3,379	3,344	X	8,856	X
6	3,141	3,023	906	9,532	16,602
7	2,944	3,151	744	8,672	15,511
8	2,842	2,417	795	7,645	13,699
9	3,015	1,345	1,143	7,555	13,058
10	3,180	2,610	1,285	8,283	15,358
11	2,888	1,800	1,262	7,478	13,428
12	2,632	2,144	1,308	7,576	13,660
13	2,472	1,276	1,611	6,805	12,164
14	2,191	808	853	13,290	17,142
15	1,286	769	571	13,246	15,872
16	2,144	271	1,172	4,620	8,207
17	1,190	668	438	5,191	7,487
18	1,793	878	492	5,212	8,375
19	1,654	X	56	4,943	X
20	1,241	X	453	6,020	X
21	1,502	X	563	5,313	X
22	2,514	X	682	4,667	X
23	2,217	1,664	9,763	4,050	17,694
24	2,486	X	X	4,542	X
25	2,654	679	X	5,227	X
26	2,575	841	460	3,697	7,573
27	2,654	4,183	700	2,135	9,672

### (13) 海面漁業経営体数

単位：経営体

	個人経営体	団体経営体	合計	内 訳	
				沿岸漁業層	中小漁業層
元年	2,147	154	2,301	2,040	261
2	2,098	165	2,263	2,003	260
3	2,020	171	2,191	1,937	254
4	1,965	162	2,127	1,881	246
5	1,888	163	2,051	1,814	237
6	1,896	178	2,074	1,827	247
7	1,841	176	2,017	1,786	231
8	1,813	170	1,983	1,749	234
9	1,730	171	1,901	1,672	229
10	1,609	183	1,792	1,566	226
11	1,666	175	1,841	1,607	234
12	1,595	179	1,774	1,534	240
13	1,578	188	1,766	1,528	238
14	1,512	196	1,708	1,466	242
15	1,418	185	1,603	1,373	230
16	1,310	195	1,505	1,278	227
17	1,246	191	1,437	1,209	228
18	1,184	189	1,373	1,152	221
19	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
20	1,216	186	1,402	1,192	210
21	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
25	985	168	1,153	960	193

### (14) 内水面養殖業経営体数

単位：経営体

	マス類	アユ	コイ	ウナギ	ティラピア	その他
元年	48	22	44	85	7	9
2	39	21	36	84	6	7
3	38	18	34	84	6	7
4	40	20	31	72	7	6
5	38	19	28	59	4	5
6	38	19	27	54	X	5
7	35	18	26	57	X	5
8	34	18	22	53	—	3
9	33	19	21	47	—	X
10	39	19	21	43	X	X
11	30	20	19	44	X	4
12	28	19	17	41	X	4
13	29	19	15	38	...	...
14	29	19	15	39		
15	30	19	16	38		
16	30	18	13	38		
17	29	17	11	38		
18	23	19	9	39		
19	⋮	⋮	⋮	⋮		
25	17	14	6	36		

平成13年から調査対象魚種が、マス類・あゆ・こい・うなぎの4種のみになりました。

### (15) 漁業就業者数

単位：人

	男子	女子	合計
元年	5,750	550	6,300
2	5,640	590	6,230
3	5,480	600	6,080
4	5,360	590	5,940
5	4,562	432	4,994
6	4,480	410	4,900
7	4,420	370	4,800
8	4,300	350	4,650
9	4,140	340	4,480
10	4,008	269	4,277
11	3,950	290	4,240
12	3,850	250	4,100
13	3,710	280	3,990
14	3,670	260	3,930
15	3,495	254	3,749
	⋮	⋮	⋮
20	3,199	161	3,360
	⋮	⋮	⋮
25	2,561	116	2,677

### (16) 漁船登録隻数

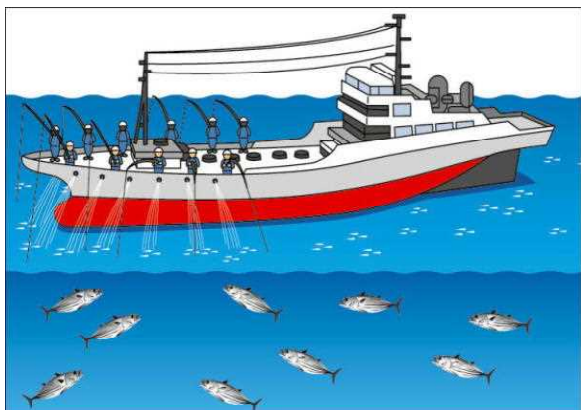
単位：隻

元年	総隻数	無動力 漁船	総動力 漁船							
				0~3 t	3~5 t	5~10 t	10~20 t	20~50 t	50~100 t	100 t 以上
元年	4,399	19	4,380	2,298	1,533	175	240	6	103	25
2	4,399	19	4,380	2,031	1,518	184	247	6	95	29
3	4,324	20	4,304	2,246	1,504	189	238	5	89	33
4	4,250	14	4,236	2,210	1,470	197	239	5	80	35
5	4,093	12	4,081	2,126	1,411	191	238	7	73	35
6	3,983	14	3,969	2,027	1,390	192	245	6	64	45
7	3,936	13	3,923	1,989	1,375	195	256	5	54	49
8	3,891	14	3,877	1,983	1,333	200	254	5	52	50
9	3,842	11	3,831	1,992	1,277	197	263	4	47	51
10	4,046	11	4,035	2,153	1,319	202	259	4	40	58
11	3,989	10	3,979	2,101	1,284	203	280	4	44	63
12	3,946	9	3,937	2,074	1,259	212	291	4	32	65
13	3,714	9	3,705	1,842	1,265	212	288	4	31	63
14	3,648	10	3,638	1,795	1,239	216	289	4	29	66
15	3,488	6	3,482	1,714	1,169	221	294	4	18	62
16	3,329	5	3,324	1,617	1,123	220	289	3	15	57
17	3,202	5	3,197	1,539	1,083	212	291	3	16	53
18	2,965	6	2,959	1,429	1,006	196	271	3	13	41
19	2,971	6	2,965	1,398	1,018	205	289	2	13	40
20	2,889	6	2,883	1,363	982	194	293	2	11	38
21	2,835	6	2,829	1,346	941	202	292	2	10	36
22	2,789	6	2,783	1,321	922	199	293	2	10	36
23	2,775	6	2,769	1,320	902	201	300	2	8	36
24	2,723	7	2,716	1,305	871	200	296	2	10	32
25	2,659	7	2,652	1,277	841	197	294	2	11	30
26	2,604	7	2,597	1,252	817	197	291	2	9	29
27	2,534	7	2,527	1,215	790	193	293	2	8	26
28	2,495	7	2,488	1,199	765	196	292	1	10	25
29	2,405	9	2,396	1,157	726	188	290	1	10	24

数値は全て12月末現在



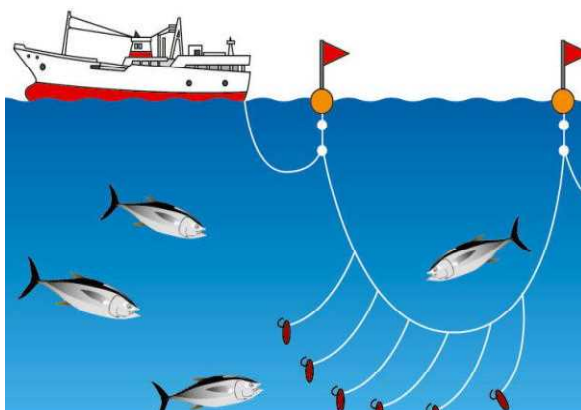
## 2 宮崎県で行われている主な海面漁業



### かつお一本釣（いっぽんづり）漁業

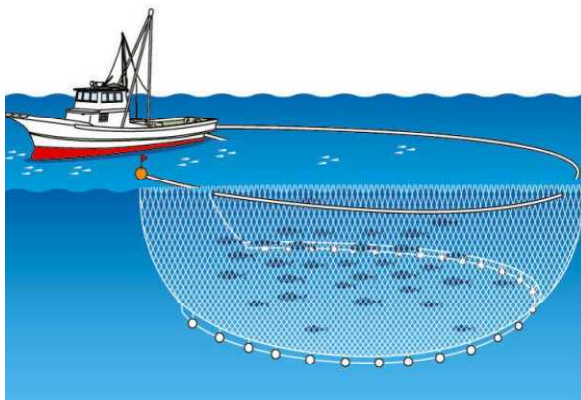
釣竿を使った一本釣りでカツオを釣ります。カツオの群れを追って近海を操業し、群れを見つけると、活きたカタクチイワシ等をまいた後に、ぎじ針のついた竿で釣ります。

主に日南市の漁船が行っています。



### まぐろはえ縄（はえなわ）漁業

沿岸まぐろはえ縄漁業では、10 k m～100 k mの幹縄（みきなわ）に釣針の付いた枝縄（えだなわ）を付け、アジなどの餌を付け、早朝の海に流し、一定時間経過後に引き上げて漁獲します。主に日向市、日南市、川南町の漁船が行っています。



### まき網（まきあみ）漁業

4隻～5隻の船団で行う漁法です（網船1、灯船（ヒブネ）2、運搬船1～2）。

灯船が海中に水中集魚灯を下ろして光に集まった魚を網船で漁獲します。

主にアジ、イワシ、サバ類を漁獲します。

主に延岡市の漁船が行っています。

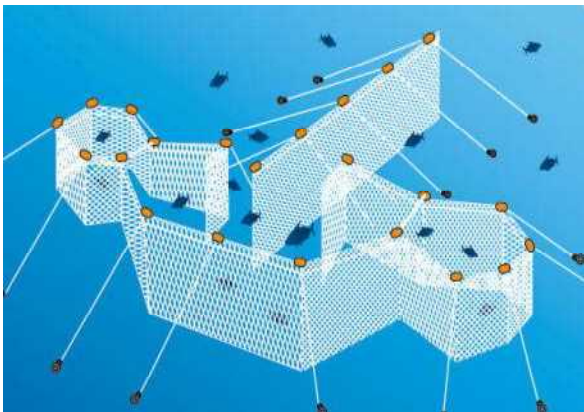


### ひき縄（ひきなわ）漁業

釣糸の先端部にぎじ針を付け、水面の表層又は表層近くを船で曳きます。

主に沿岸で行われ、主な漁獲物はマグロ類、カツオ類、サワラ等です。

県内全域で行われています。



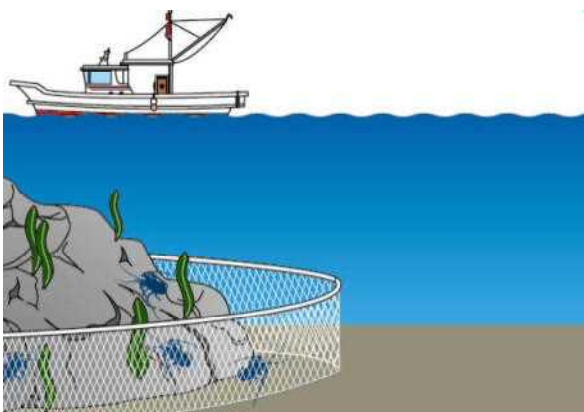
### 定置網（ていぢあみ）漁業

漁具を固定して行う漁業で、主に回遊を行う魚類を対象にしています。

県内では、沿岸域に設置してあります。

主な漁獲物はブリ、アジ、タチウオ、イカ等です。冬期には延岡市、串間市で大型のブリが漁獲されます。

主に県北と県南地域で行われています。



### 建網（たてあみ）漁業

網を岩場に設置し、魚やイセエビ等はその網にからまって漁獲されます。

主な漁獲物はイセエビ、ヒラメ、メジナ等です。

県内全域で行われています。

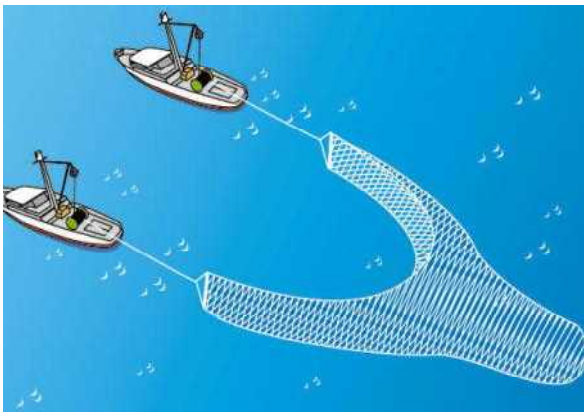


### 小型底びき網(こがたそこびきあみ) 漁業

漁船を動かしながら、海底を網でひいて、海底にいる魚等を漁獲します。

主な漁獲物は、エビ類やカニ類、ハモ、ヒラメ等です。

主に延岡市、門川町、川南町、宮崎市、串間市の漁船が行っています。

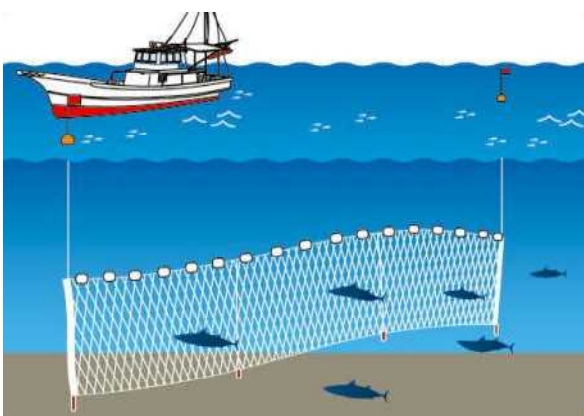


### 機船船びき網(きせんふなびきあみ) 漁業

3隻で操業し、2隻はゆっくり走りながら網を曳きます。残り1隻は漁獲物の運搬を行います。

主な漁獲物はカタクチイワシの稚魚でシラス干しの原料となります。

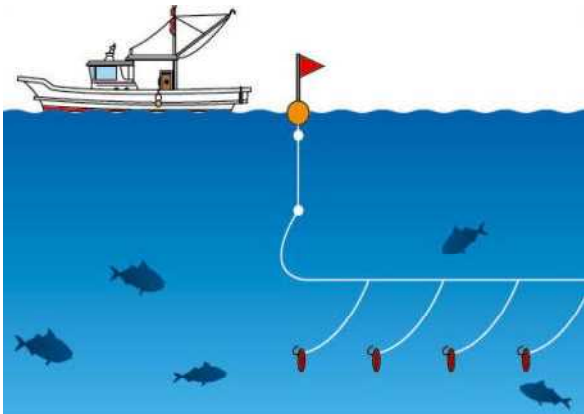
主に延岡市、日向市、宮崎市の漁船が行っています。「ぱっち網」とも言われます。



### 刺網(さしあみ) 漁業

魚が通過する場所をさえぎるように設置し、魚が網に刺さるような形で漁獲されます。

主な漁獲物は、サワラ、カマス、アジ等です。県内全域で行われています。

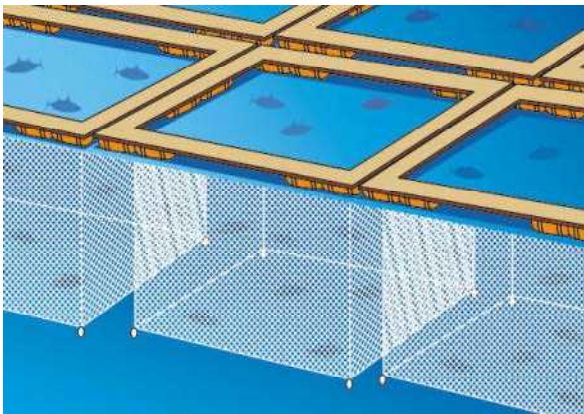


### はえ縄（はえなわ）漁業

幹縄（みきなわ）と呼ばれるロープに釣針に餌をつけた多くの枝縄（えだなわ）をつけて海に流し、一定時間経過後に引き上げて、漁獲します。

主な漁獲物は、タイ、フグ、シイラ、アマダイ等です。

県内全域で行われています。



### 養殖（ようしょく）業

網を張ったイケス等を使用し、餌を与えて、魚等を大きく育て、出荷します。

カンパチ、ブリ、タイ等を主体に延岡市、串間市等で養殖が行われています。

また、ヒラメなどは陸上水槽を用いて行われ、主に延岡市、日南市などで行われています。

### 3 宮崎県水産物ブランド認証品

宮崎県では9品目の水産物がブランド認証されています！



第1号 宮崎カンパチ



第2号 北浦灘アジ



第3号 門川金鱧



第4号 ひむか本サバ



第5号 宮崎かつお  
うみっこ節



第6号 五ヶ瀬やまめ



第7号 宮崎焼酎  
もろみ漬け(シイ)



第8号 宮崎一口あわび  
浦の恵



第9号 みやざき金ふぐ

## 統計用語の説明

### 【海面】

海面漁業	・海面において利潤又は生活の資を得るために、生産物を販売することを目的として行う漁業生産行為。
海面養殖業	・海面又は陸上に設けられた施設において、海水を使用して水産動植物の種苗を生産し、又は水産動植物を集約的に育成し、収穫する事業。
漁業経営体	・利潤又は生活の資を得るために、生産物を販売することを目的として、海面において水産動植物の採捕又は養殖の事業を行った世帯又は事業所。ただし、基準期間1年間における漁業の海上作業従事日数が30日未満の個人経営体は除く。
経営組織	・漁業経営体を経営形態別に分類する区分。
個人経営体	・個人で漁業を自営する経営体。
会社経営体	・個人経営体以外の経営体をいい、会社、漁業協同組合、漁業生産組合、共同経営、官公庁・学校・試験場に区分。
漁業層	
沿岸漁業層	・漁船非使用、無動力船、動力船10トン未満、定置網、地びき網及び海面養殖の各階層を総称したもの。
中小漁業層	・動力船10トン以上1,000トン未満の各階層を総称したもの。
大規模漁業層	・動力船1,000トン以上の各階層を総称したもの。
遠洋漁業	・本県では、遠洋まぐろはえ縄漁業・遠洋かつお一本釣漁業を示す。
沖合漁業	・10トン以上の動力漁船を使用する漁業のうち、遠洋漁業、定置網漁業及び地びき網漁業を除いたもの。
沿岸漁業	・漁船非使用漁業、無動力船及び10トン未満の動力漁船を使用する漁業並びに定置網漁業及び地びき網漁業を示す。
漁業制度	
大臣許可漁業	・漁業法（昭和24年12月15日法律第267号）に基づいて政令により定められた漁業（「指定漁業」と称されている。）で農林水産大臣の許可を受けなければ営むことができない漁業。
知事許可漁業	・漁業法により、知事の許可を受けなければ営むことのできない漁業（法定知事許可漁業）及び都道府県漁業調整規則で知事の判断に基づき独自に規定した漁業で、知事の許可を受けなければ営むことができない漁業。

特定大臣許可漁業

・指定漁業以外であって、農林水産大臣の許可がなければ営むことができない漁業。

漁業権漁業

・都道府県知事の免許を受け、一定の水面において排他的に一定の漁業を営む権利を有する漁業で共同漁業、区画漁業、定置漁業が含まれる。

自由漁業  
その他の漁業

・海面で農林水産大臣又は知事の許可・承認等を必要としない漁業。  
・上記の他で以下の漁業を示す。

- (1) 官公庁、学校、試験場等の調査船で行う漁業
- (2) 海区漁業調整委員会の承認を受けて営む漁業
- (3) 農林水産大臣に届け出を行って営む漁業

### 【内水面】

内水面漁業

・公共の内水面において水産動植物を採捕する事業をいい、天然種苗の採捕及び漁業権の設定されている内水面での遊漁を含む。  
・平成18年からは販売及び自家消費を目的として漁獲した魚種別の数量並びにあゆ、うなぎの種苗を採捕した数量を調査対象とし、遊漁者の採捕量は含まない。  
・平成16年に調査範囲の見直しが実施され、大淀川・一ツ瀬川の2河川が調査範囲とされた。

内水面養殖業

・販売を目的として、一定区画内の内水面において、養殖場等を設置し、人為的管理を積極的に行い、水産動植物を育成収穫する事業。

### 【単位・記号】

単 位

・表示単位未満の端数は四捨五入しているため、計と内訳とは一致しない場合がある。

記 号

「—」：事実のないもの  
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの  
「0」：単位に満たないもの（例：漁獲量0.4t⇒0t）  
「X」：個人、法人又はその他の団体の個々の秘密に属する事項を秘匿するため（統計法第14条）数値を公表しないもの、また、計からの差し引きにより「X」表示の推定できる場合、関連する数値も公表しない者として扱う  
「▲」：負数又は減少したもの  
「…」：未発表のもの

# 宮崎県水産白書

発行／宮崎県農政水産部水産政策課

〒880-8501 宮崎市橘通東二丁目10番1号

TEL 0985-26-7685

FAX 0985-26-7309